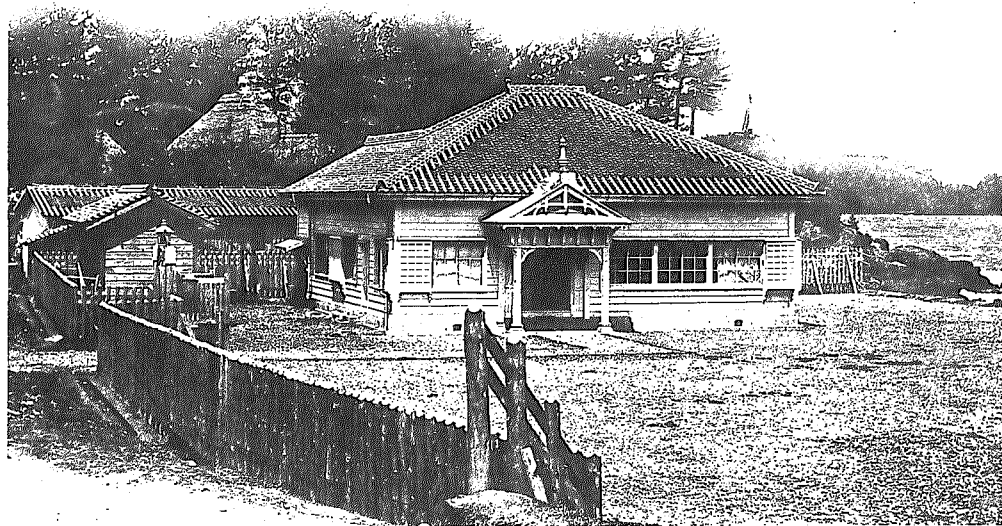


明治四十年度

鹿兒島縣水產試驗場事業報告

漁撈 製造



(在現年十四治明) 場驗試產水縣島兒鹿

# 明治四十年鹿兒島縣水產試驗場事業報告

## 目次

漁撈部	………	一
春季鯉餌料小鰮網試驗	………	一
一、目的	………	二
二、小鰮來游ノ狀況	………	三
三、試驗日誌	………	二
四、試驗地ノ海況	………	六
五、試驗ノ結果	………	七
春季鯉餌料小鰮蓄養試驗	………	八
石油篝火燈使用試驗	………	一〇
一、使用ノ目的	………	一〇
二、構造及使用法	………	一一
三、從來ノ篝火燈トノ比較	………	一三
(イ) 燃料購入及ビ運搬ノ便否	………	一三
(ロ) 火船操縦ノ便否	………	一三

(ハ)	光力ノ定不定	………	一四
(ニ)	光度及ビ浸透力	………	一四
(ホ)	點火消火及ビ光力ノ増減	………	一五
(ヘ)	破損	………	一五
(ト)	燃料	………	一六
	石油篝火燈消油量試験表	………	一六
四、	結論	………	二〇
五、	取扱上ノ注意	………	二〇
	鱧流網試験	………	二一
一、	試験ノ目的	………	二一
二、	鱧流網出漁試験表	………	二二
三、	屋久島及種子島漁場調査	………	二六
(イ)	屋久島	………	二七
(ロ)	種子島	………	三二
	いとし揚繰網試験	………	三三
	秋季鱈餌料小鰮網試験	………	三五
	試験従業日誌	………	三五

石油篝火燈用油量試驗表	四二
秋季鯉餌料小鯧蓄養試驗	四三
蓄養日誌	四四
鱸延繩貸與試驗	四六
出漁日誌	四七
鱸卷網設計	四八
<b>製 造 部</b>	五〇
鯧油漬罐詰試驗	五〇
一、緒 言	五〇
二、鯧原料購入	五〇
三、製造法中改良ノ要點	五二
四、材 料	五三
五、職工及ヒ人夫	五四
六、生產費	五四
七、結 論	五九
米國輸出鹽鯖製造試驗	六〇

一、目的	六〇
二、製造ノ時期	六三
三、原料ノ購入	六三
四、製造處理	六四
五、製造費ト輸送	六五
水藏魚運搬試驗	六六
一、目的	六六
二、第一回水藏運搬	六九
三、第二回水藏運搬	七二
四、第三回水藏運搬	七五
五、試驗ノ結果	七九
鹽藏試驗	八〇
一、鯨赤肉鹽藏試驗	八一
(イ) 試製法	八一
(ロ) 貯藏中ノ經過狀況	八一
(ハ) 試賣品評	八二
二、鯨白肉鹽藏試驗	八三

	(イ) 試製法	八三
	(ロ) 試賣品評	八三
	(ハ) 白肉貯藏中ノ經過狀況	八四
	三、鯨鹽藏試驗成績表	八四
	四、鹽藏試驗鯨分拆表	八五
	五、鯖鹽藏試驗	八五
	(イ) 製造法	八六
	(ロ) 貯藏中ノ經過狀況	八六
	六、鯖鹽藏試驗成績表	八八
	七、鹽藏試驗鯖分拆表	八八
<b>漁業報告及漁獲調查統計</b>		
	漁業通信員報告	一
	鹿兒島縣釣餌一覽	一五
	縣下漁獲高及漁村教育統計	一五
	鹿兒島縣漁獲統計表	一六
	鹿兒島縣沿岸漁村教育統計表	二八

# 明治四十年度鹿兒島縣水産試驗場事業報告

## 漁撈部

### 春季鯉餌料小鰻網試驗

#### 一、目的

鯉餌料小鰻網試驗ハ明治三十八年度以來ノ繼續ニシテ出水郡阿久根村佐瀉ニ於テ秋季小鰻ノ捕獲ヲナシ蓄養試驗ト關聯シ縣下鯉漁業者ノ喝望セル餌料ノ供給ヲ目的トスルモノニシテ其結果ハ毎年度報告書ニ掲載スル所ノ如ク着々成績ヲ擧ゲツ、アリ然リト雖春季ニ於テハ未ダ之レガ餌料供給ノ途ナク唯僅カニ鯉船各個自ラ鰻ヲ捕獲シテ之レヲ使用シツ、アリ而シテ鰻ハ性甚ダ尪弱頗ル斃死シ易キヲ以テ完全ニ漁利ヲ擧グルコト能ハズ則チ春季小鰻ヲ捕獲シ之レガ餌魚ノ供給ヲ計ルモ亦大ニ講究試驗ノ必要ヲ感ズル問題ニシテ單ニ鯉漁業者ノ便益ヲ増進スルノミナラズ鯉漁業者ノ閑時ニ際シ新事業起畫ノ利ヤ亦甚大縣下重要ニ漁業ノ發達ヲ援クルコト決シテ鮮シト云フベカラズ故ニ先ヅ前年度本場技手ヲシテ縣下春季小鰻群來ノ狀況ヲ調査セシメタルノ結果揖宿郡山川ヲ根據トシ鹿兒島灣ニ於ケル鰻ノ捕獲ヲ試ムベク決定セリ

#### 二、小鰻來游ノ狀況



抑モ鹿兒島灣ニ來游スル鰻ニ就キテハ未ダ曾テ實地調査ヲナセシコトナキヲ以テ全地漁民ハ未ダ充分ノ漁利ヲ擧ゲ得ズ八田網ノ如キモ九月上旬ヨリ出漁シ三月下旬ニ至ツテ終業シ其間四月乃至八月ニ於テハ手ヲ空シウシテ敢テ鰻漁ヲ試ムルモノサヘナシ今左ニ全灣沿岸漁民ノ言ヲ一括シ鰻群來ノ模様ニ就キ其概畧ヲ記サン

鹿兒島灣ニ於ケル鰻ニ重ニうるめいわしニシテ常ニ二三分ノまいわしヲ混ジ春夏ノ頃ニハ小鰻群ニたれくち即チせぐるめいわしヲ交ユ而シテ其去來狀況ハ陰曆七、八、九月中山川沖合神瀬大會根附近ニ群來シ此處ニテ網獲セラル次デ九月下旬ヨリ十月初旬ニ及ンデ漸次灣ノ東岸ニ沿ヒ高洲古江新城垂水沖合ニ於テ捕獲セラレツ、北上シ櫻島附近ニ到リ二月下旬此處ニ産卵スルモノ、如シ而シテ四月ニ至レバ既ニ産卵ヲ了リ魚群ハ下リ魚ト稱シ灣ノ中央ヲ通過シテ速力ニ游行シ去ルヲ以テ捕獲スル能ハスト

以テ未ウ此下リ魚ト稱スル春季ノ小鰻ヲ捕獲スルモノナク鰻漁業者ハ此季節ニ至レバ總テ他ノ事業ニ轉スルノ不經濟ヲナシツ、アリ茲ニ於テ本場ハ之レガ捕獲果シテ不能ナリヤ否ヤヲ確メ萬一不能ナリトセバ何ンガ故ニ網獲スル能ハザルカヲ調査シ之レニ向ツテ新適切ナル漁具ノ考究ヲナシ如何ニモシテ春季鯉餌料供給ノ途ヲ立テ以テ本縣下漁業界ノ開發ニ資セント欲シ五月三日ヨリ六月十八日ニ至ル四十七日間山川ニ於テ本試驗ヲ實施セリ之レガ從業日誌ハ左ノ如シ

### 三、試驗日誌

## 試驗日誌

月日	天候	使用時間	漁場	風位	風力	潮流	緩急	漁獲物	備考
廿九日	曇			東南東	疾	西北			本場出發野間池投錨
三十日	雨			西南	疾	全			山川ニ着ス
一日	雨								出漁準備
二日	晴								全
三日	雨曇	九、〇〇 <sup>時</sup>	灣口					鰮 二、〇 <sup>キ</sup>	點火四十分ニシテ魚附ケリ
四日	曇	一〇、四〇	兒ヶ水東方 水深八尋					ウルク 一、五 小鰮 一、五 タレクチ 五	點火三十分ニシテ魚附ク。蓋養ス
五日	雨	一〇、四〇	口ノ瀬 二十五尋					鰮 一カ 二五〇尾	點火二十分ニシテ魚附ク
六日	全								休業
七日	晴	一〇、三〇	七股 濟南東 尋					鰮 一カ 三五、五尾 雜魚 一	
八日	曇	四、二〇	ナメガフチ 十五尋	北々西	歇	東	急	鰮 一カ 八	蓋養ス
九日	雨	四、四〇	十股 濟南沖 尋	全	和	北	全	鰮 タレクチ 一、八五	全
十日	晴	一〇、四〇	全	西	疾	西	緩	鰮 一カ 一七、三尾	本夜ヨリ石油燈火燈ト薪材トノ比較試験ヲナス
全日	全	二、三〇						鰮 七	

春季鰮餌料小鰮網試験

廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日	十五日	全日	十四日	十三日	十二日	全日	十一日	十五日
全	全	晴	雨	全	全	晴	曇	雨	全	全	全	全	全	全	全	晴
	全	前				至自	全	全	全	全	全	前		前	后	
	四、〇〇	四、〇〇				四、四〇	二、四〇	四、二〇	四、四〇	四、二〇	三、二〇	四、三〇		四、三〇	一、〇〇	一、〇〇
	全	ナベカフチ		二口ノ	ナベカフチ	灣口	全	全	口ノ	全	笠二十五	笠	山川港内	全	笠	笠
				尋	尋				瀬		瀬				瀬	瀬
西	全	北	東	西				西	東	全	西	西	西			
和	全	歌	疾	和				疾	全	全	和	歌	和			
東	北	東						南	全	全	北	全	西			
南		南						全	全	全	全	全	緩			
急	緩	急					全	全	急	全	全	全				
	雑魚	鯉	鱈		雑魚	鯉	イカ	全	全	全	鯉	雑魚	鯉	鯉	鯉	タレクチ
	キヒナゴ	ウルメ			四、五	三、八	一、五〇尾	一、〇	五、〇	八	二、〇	二、七	七、〇〇	一、二〇	六	七
月夜	大坪、川原田両鯉火燈共故障ヲ生ズ		時化休業ス				全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
	蓋養ス						蓋養ス	昨十六日ハ時化ノ爲メ休業			蓋養ス		本夜五回使用ス	蓋養ス		大坪式鯉火燈破損ス。蓋養ス

春季經餌料小鱸網試驗

九全	八全	七全	六全	全	全	五全	四全	三全	二全	一六	全	三全	廿全	廿全	廿全
日月	日月	日月	日月	日	日	日月	日月	日月	日月	日月	日	十日	九日	八日	七日
全	全	晴	全	全	全	全	全	全	全	雨	全	晴	曇	全	全
	至自 前	至自 前	全	前	全	后		后	前	全	全	后	后		
	一 四、 〇〇	九、 二、 三〇	四、 二〇	四、 一〇	一、 一、 三〇	一〇、 三〇		一、 〇〇	四、 〇〇	一〇、 三〇	一〇、 〇〇	九、 二〇	八、 二〇		
ノ 口	カ ン ノ ア サ	全	全	全	全	二 ナ ベ ガ フ チ	十 口 五 ノ 瀨	三 ナ ベ ガ フ チ	全	三 指 十 宿 ノ 前	全	全	二 三 峯 十 ノ ダ シ		
西 北	全	北	西	全	全	東 北	北	東 北	東	東 北	全	全	西	北	西 南
歌	全	和	歌	全	全	全	全	和	疾	全	全	全	全	歌	全
全	東 北	全	南	全	全	全	全	東 北	北	東 南	全	南	北		
全	全	全	全	緩	全	全	全	急	緩	全	急	緩	急		
ウ ル メ	鱈 ウ ル メ	鱈 ウ ル メ	鱈	全	全	鱈				ウ ル メ	イ カ 一 〇〇 尾	ウ ル メ	雜 魚		
一 〇、 〇〇	三、 〇、 六	一、 四	一、 六、 〇	二、 〇	三、 〇	五、 五	二、 〇			二、 〇	一、 〇	一			
四 回 使 用 ス	二 回 使 用 ス	二 回 使 用 ス	四 回 使 用 ス			二 回 使 用 ス								月 夜	月 夜

十六日 月	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日
晴	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
後	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
一〇、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇
ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ	ナベガフチ
南	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
歌	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
北	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
緩	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒	鱒
五、〇	二、〇	四、五	三、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇
大坪式篝火故障ヲ生ズ	五回投網ス	強風投網スル能ハズ	二回使用ス	漁獲ナシ	魚火ニ付カズ	二回投網ス	疾風ノ爲メ投網スル能ハズ	二回投網ス	タレクチ	試験終了	二回投網ス	二回投網ス	二回投網ス	二回投網ス	二回投網ス	二回投網ス	二回投網ス	二回投網ス	二回投網ス

漁獲物拂高 金貳百九拾六圓七拾九錢五厘也

試験中器械破損及ビ擔任技手陸軍召集ニ應ジタル爲メ諸觀測ヲ缺ケリ

四、試験地ノ海況

鹿兒島灣ハ南北二十里東西三里乃至八里沿岸線ノ延長凡五十里ニ達スル大灣ニシテ櫻島其他數坐ノ島嶼アリ肝屬始良鹿兒島及ビ揖宿ノ四郡之レニ面シ佐多小根占大根占花岡新城垂水牛根鹿兒島市谷山喜入今泉指宿及山川岡兒ケ水等重  
要漁村甚ダ多ク鯤鰔鯖鮪羽鰹鯛鮒其他ノ魚篋ニ富ミ漁獲又少ナカラズ山川ハ鹿兒島灣ノ西岸灣口ニアリ其東岸大隅ノ  
大濱ト相對シテ鹿兒島灣ノ咽喉ヲ擁セリ海岸西南ニ向ツテ深ク灣入シ古來著名ノ長港ニシテ山岳港ノ三面ヲ圍繞シ港  
内水深ク各種船舶ノ碇泊ニ適シ内海ハ勿論外海ノ出漁亦最モ便利ナリ港口ノ北方三里ニ知林島アリ此間沿岸一帶砂濱  
遠淺ニシテ一海里ヲ出ヅルモ海深尙四五尋ナリ港口以南海岸西南ニ延ビ西ニ折レ岡兒ケ水ニ至ル其東南ニ突出セルヲ  
長崎ト稱ス知林島以南長崎ニ至ル五里ノ間即チ山川港ノ南北二里餘ノ沿岸ハ同港ヲ根據トシ出漁スルニ適セル漁區ニ  
シテ笠瀨鵜瀨飛瀨鯨瀨神瀨大會根等幾多ノ暗礁點在シ各種魚篋之レニ纏綿セリ

## 五、試驗ノ結果

本試驗ニ徵スレバ全地漁民ガ春季小鯧ノ捕獲不能ナリト信ゼシハ全ク無稽ノ誤解ニシテ年々之レガ群來游去ニ任セ今日迄之レヲ捕ヘント企テシ者ナカリシヲ遺憾トスルト同時ニ本場ノ豫想良ク適中シ全地ノ八田網ハ勿論先年本網ヲ購入セル上久保六郎氏ノ如キ本場試驗船ト伴ニ本年度春季ヨリ出漁スルニ至リ勞々之ヲ蓄養シテ鯨餌料ノ供給ヲ開始シタル等該試驗ノ甚ダ有効適切ナリシヲ喜バズンバアルベカラズ而シテ其結果三月以後六月中旬迄就中四五ノ兩月ヲ以テ春季小鯧漁ノ最モ適當ナル時期タルヲ確メ從來三月ヲ以テ終結シツ、アリシ八田網出漁期限ヲシテ約三ヶ月間延長スルニ至リタルハ本試驗成績中特筆大書スベキ所ニシテ延ヒテハ餌料ニ窮乏セル鯨漁業者ニ満足ヲ與フル等其及ブ所遠且大ナリト云フベシ

要スルニ本試驗ハ春季鯉ノ調査ヲ主トシ既ニ以上ノ如キ成效ヲ見タレバ本年度試驗ノ目的ハ達シ得タリト云ツテ可ナリ而シテ試驗地山川ニ於ケル縫切網ノ使用ハ未ダ草創ニ屬スルヲ以テ同地漁夫之レガ使用ノ方法ヲ知ラザリシ結果充分ノ漁利ヲ擧ゲテ經濟的報告ヲナスニ至ラザリシモ出漁四十日間漁獲二百九十六圓七十錢五厘ヲ得亦好漁タルヲ失ハズ然リト雖モ之レ元ト本試驗ノ主眼トセシ所ニアラズ然リ而シテ本試驗ノ結果ハ從來全地方漁民ノ春季小鱸ニ對スル疑問ヲ氷解シ小鱸ヲ蓄養シテ之レヲ鯉漁業者ニ賣リ渡スノ如何ニ有利ナルカヲ知得セシメタリ若シ夫レ之レガ實地經濟上ノ試驗ニ至リテハ更テニ明年度ヲ期シ充分ノ試驗ヲ重子以テ起業上參考トナルベキ具體的ノ告報ヲナサントス本試驗中得タル尙一ノ經驗ハ春季全地沿岸ニ來游スル鯉ハ體形甚ダ小ニシテ本場ノ網ニアリテハ揚網中脱出シ若シクハ網目ニ刺シ爲ニ蓄養スル能ハザルニ至リシコト往々之レアリキ而シテ漁期中天候若シクハ鯉群來等種々ノ都合上鯉ヲ捕獲セント欲セバ之レ亦甚容易ナルヲ以テ網目ヲシテ今少シク小ナラシムルノ必要ヲ發見シタルコト之レナリ即チ魚取部及胴網一番ニハ二十六七節ノ網目ヲ用ヒ胴網二三番ニ二十五節四五番ニ二十二節六七八番ニ十八節若シクハ十四節ヲ用ユルヲ可トス

### 春季鯉餌料小鱸蓄養試驗

本試驗ハ前記縫切網試驗ト關聯シ三十八年度以來ノ繼續ニシテ本年度ニ於テモ同試驗ト共ニ揖宿郡山川ニ於テ實施セリ而シテ本縣下ニ於ケル鯉餌料捕獲供給ノ必要及有利ナルコト等ハ初年來報告書ニ之レヲ記シ且ツ實驗スル所ニシテ一般當業者モ亦之レヲ熟知スルニ至リタレバ既ニ再言ノ必要ヲ認メズ玆ニハ試驗地山川ガ該餌料蓄養供給場トシテ甚ダ適當ナル位置タルコト及本年試驗ノ概況トヲ記シ以テ當業者ノ參考ニ資セントス

抑モ鯉餌料小鯉蓄養事業ノ經營上最モ困難ヲ感ズル所ノモノニツアリ一ハ漁場ト蓄養場トノ距離遠キ場合ニシテ一ハ蓄養場風波ノ虞アルコト之レナリ其距離四五海里ヲ越ヘナバ從來ノ方法ニテハ之レガ運搬殆ント不可能ナリ而シテ若シモ蓄養場ニシテ風波ヲ防止スル能ハザル地勢ノ港灣ニアリテハ活籠ノ繫留困難ニシテ假令堅固ニ繫ギ得ルトスルモ籠中ノ鯉ハ決シテ健全ニ馴飼スル能ハザルナリ乍併風波ニ對シテ安全ナル地ハ多ク海水ノ新陳代謝良シカラス海水ノ流通ヨロシキ灣港ハ常ニ風波荒キヲ免レズ以上ノ三點即チ漁場トノ距離風波ノ如何及ビ海水ノ流通等ハ餌魚蓄養場撰定ニ際シ最モ注意ヲ要スル所ナリ漁場遠キ時ハ酋ニ潮流風向等ニ依リ曳船ノ頗ル難澁ナルノミナラズ之亦蓄魚ノ負傷疲勞等甚シク爲ニ多クノ斃死魚ヲ出スニ至ルベシ然ルニ試驗地山川ハ漁場甚ダ近ク常ニ一海里ヲ出ツルコト稀ナルヲ以テ以上ノ如キ困難ハ勿論蓄魚ノ損傷ヲ來スコト少シ加フルニ地勢灣形天然ノ良區ニシテ毫モ風波ノ虞アルナク活籠ノ繫留甚ダ安全從ツテ魚ノ馴ル、コト早シ而シテ海水清麗ナルヲ以テ水深三尋内外比較的流通少キ所ニ於テスラ尙斃死魚ヲ出サズ灣内能ク數百籠ヲ蓄養連繫スルコトヲ得ベシ且又鯉漁場トノ關係上鯉船ノ此處ニテ餌魚ヲ購入スルコトヲ得バ其便益ヤ亦格別ニシテ遙カニ熊本縣下牛深港ニ赴キテ購入スルニ比シナバ其價格ノ如キ數層ノ高價ニ賣買シテ可ナルベク双方ノ便利ト收益トハ實ニ鮮少ニアラザルナリ要スルニ山川灣ハ鯉餌料蓄養供給場トシテ眞ニ適切ナル地位ニアリト謂フベシ然リ而シテ本年春季當地ニ於ケル小鯉ノ調査捕獲試驗ガ前記ノ如キ成績ヲ顯ハシ全地上久保六郎亦之レヲ開始シ初年且ツ無經驗ノ爲メ種々ノ誘惑等ノ結果充分ノ利益ヲ見ル能ハザリシモ其有益ナルコトヲ覺知シ俱ニ與ニ頗ル有望ナルヲ確メタル以上ハ之レガ蓄養事業ノ甚ダ有利有益ナルコト疑フベカラザルヲ以テ本場ハ當業者ニ向テ大ニ之レガ起業經營ヲ勸告セント欲ス然リト雖未ダ僅カ一回ノ試驗ヲ以テ直チニ之レヲ斷言センハ事尙速斷ニ失スルノ嫌ナキニアラザルガ故ニ更ラニ充分ノ調査ト試驗トヲ重子而シテ後大ニ之レヲ獎勵セント欲ス



本年度試驗中蓄養セシ餌魚數量供給量及其價格ヲ示セバ左ノ如シ

十一籠 一籠九斗乃至一石三斗入 代金二百〇四圓也

附記以上ノ如ク有利有望ナル事業タルヲ以テ炯眼ナル熊本縣人某ハ上久保氏ノ蓄養小鰻ヲ特約シ餌料運搬船ヲ回航シ同地ヲ根據トシテ餌料ノ共同運搬ヲ開始セルハ同地人ノ周ク知ル所記シテ以テ本縣下當業者ノ猛省ヲ促ス所以ナリ

## 石油篝火燈使用試驗

### 一、使用ノ目的

可及の少量ノ經費ト勞力トヲ以テ可及の多量ノ收益ヲ舉ゲントスルハ世上凡百ノ事業上ニ共通セル大眼目ニシテ漁業ノ目的モ亦之レニ外ナラズ各種漁具ノ材料構造使用ノ方法ヨリ事業ノ經營漁船其他副漁具ノ改良ニ至ルマデ有ユル漁業上ノ研究試驗ハ要スルニ經費ト勞力トヲ減ジ漁獲ヲ増スノ趣意ニ出デズ苟クモ嶄新ナル器具又ハ方法ニシテ此目的ニ叶フモノアラバ探テ以テ之レヲ試驗シ從來ノモノニ比シ果シテ優レルヲ發見確認スルニ於テハ之レヲ一般當業者ニ紹介シ其改良ヲ促スベキハ官民共ニ勉ムベキ所ニシテ漁業進歩ノ唯一ノ途タルベシ玆ニ石油篝火燈ナルモノハ長崎縣下ニ於テ發明セラレタル專賣特許品ニシテ貯油罐内ニ石油ヲ容レ壓迫シテ之レヲ細孔ヨリ霧狀ニ噴出セシメ此處ニ點火スルモノナリ大坪式川原田式木村式麵口式田中式等數種アリテ價格用油量光力及ビ堅牢ノ度等各特徴得失ヲ異ニスト雖同一工場ノ製品中ニテモ優劣一様ナラザルヲ以テ之レニ甲乙ヲ附スルコトハ元ヨリ至難事ナリトス

本年春季山川ニ於ケル前記縫切網試驗ニ於テ大坪式及ビ川原田式各一臺ツ、ヲ購入試驗シタルニ其有効便利ナルコト

到底從來ノ薪材篝火燈ノ比ニアラザルヲ確認セリ此外木村式ハ火袋ノミヲ送附シ大坪式ニ適合スルヲ以テ併せて試験ヲ出願シタリシモ大坪式川原田式何レニモ適合セズシテ試験スル能ハザリキ而シテ五月十日ヨリ三夜間更ラニ從來ノ薪材篝火燈使用ノ火船一艘ヲ加へ相并ンデ點火セシメ以テ光力浸透度操業ノ難易并ニ經濟的試験ヲ行ヘリ

## 二、構造及使用法

石油篝火燈ノ構造ハ總テ大同小異ニシテ原理ト使用ノ方法トニ至リテハ全ク同様ナリトス其少シク異ルノ點ハ火袋蛇管ノ工合ニシテ之レガ屈曲構成ノ巧拙ニヨリ光力ニ強弱ノ差ヲ生ズルナリ今當業者ノ便ヲ計リ其構造及使用法ノ大略ヲ説明セン

構造ハ甚簡單ニシテ圖ニ示スガ如ク直徑二尺高亦二尺許ノ鐵製貯油罐ノ上面ニ注油口壓力計及送油口ヲ穿テ罐内若シクハ側面ニ空氣唧筒ヲ附シ送油口ヨリハ二條ノ送油管ヲ出シ石油ハ之レニヨリテ火袋ニ輸送セラレ火口ヨリ噴出燃焼スルモノナリ而シテ附屬品トシテ左ノ數品アリ

### 支 柱

一脚二枝ノ鐵製支柱ニシテ徑七分脚部高サ四尺枝ノ長サ各二尺五寸直角ニ折リ曲ゲ送油管ヲ支持シ火袋ヲ船外ニ懸垂スルモノナリ

### 座 金

支柱ヲ船側ニ建ツル爲メニ使用ス

### 笠

徑一尺五寸ノ鐵製圓板ニシテ火光ノ上空ヲ照ラスヲ防ギ之レヲ海中ニ反射セシム

### 風 受

長サ七寸五分巾五寸ノ長方形ノ鐵板ニシテ折曲ゲラレタル柄ヲ附シ此柄ニ依リテ笠ノ下面ニ接續シ笠ト共ニ自由ニ廻轉ス以テ風勢ヲ防ギ或ハ之レヲ利用シテ火力ヲ強ムルコトヲ得

## 油量計

徑一分長三尺許ノ鐵棒ニ度盛ヲナシタルモノニシテ注油口ヨリ罐内ニ挿入シ以テ罐中ノ油量ヲ計リ或ハ消費量ヲ檢ス而シテ其先端一寸許ヲ鈎狀ニ曲ゲ之レヲ以テ風受板ヲ廻轉シ又ハ火袋其他ヲ扱フニ便ス

## 漏斗

罐中ニ石油ヲ注入スルニ用ユ而シテ罐中ニ石油ノ滓若シクハ塵埃ノ混入スルハ頗ル忌ムベキコトニシテ時ニ火口ヲ閉塞スルコトアルガ故ニ最モ注意ヲ要ス之レガ爲メニハ極メテ細目ノ金網若クハ布片ヲ漏斗内ニ附スベシ

## 轉螺器

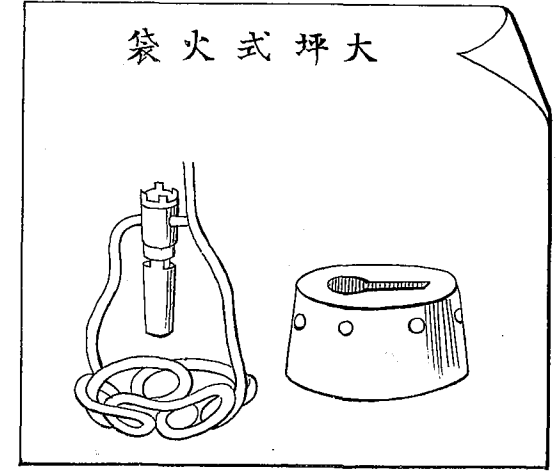
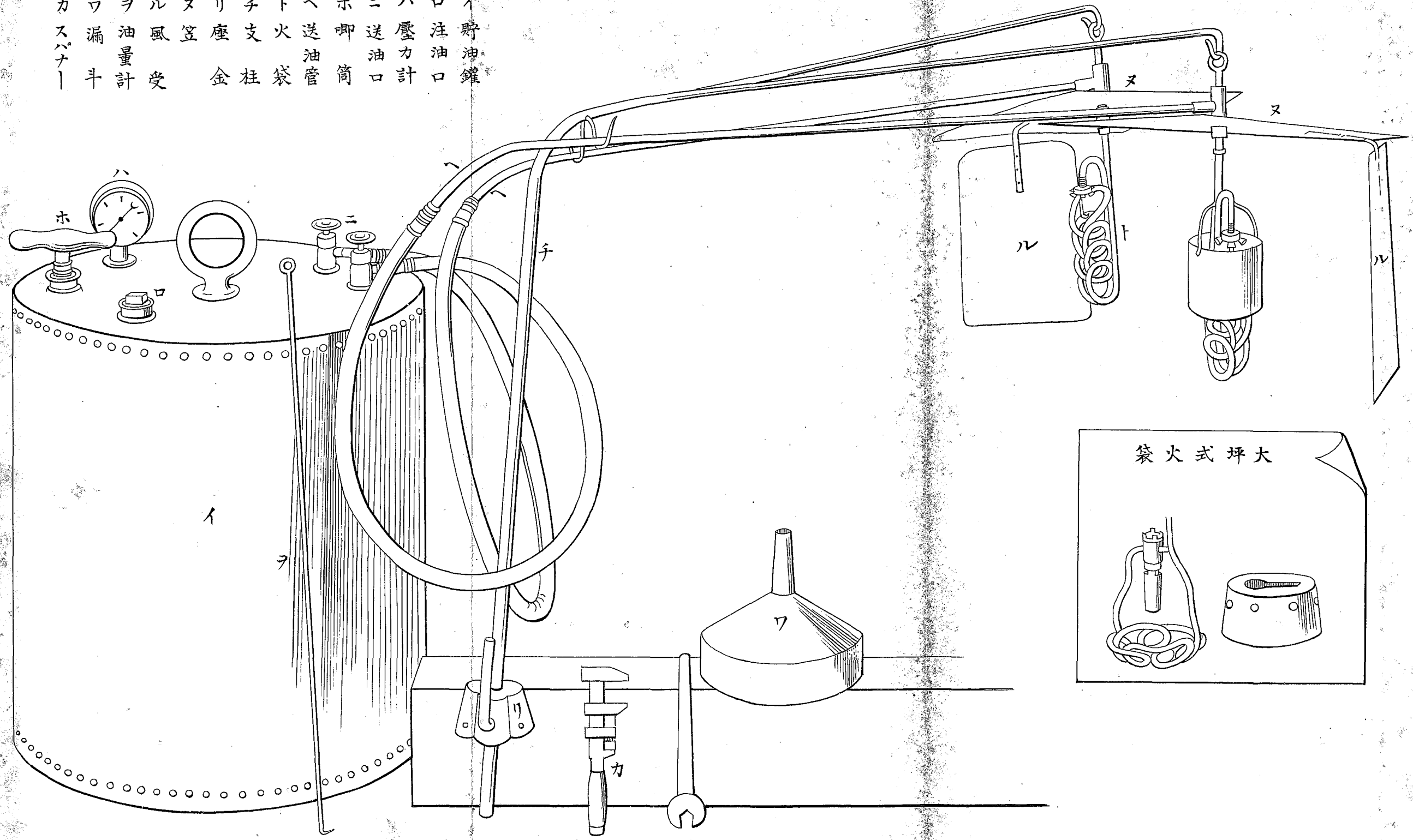
注油口其他ノ開閉若シクハ各部ノ分解手入等ノ際使用スルモノニシテ大小二個ヲ備フ

## 油差

螺子ノ部分ニ注油スルニ用ユ種子油ヲ入レ底部ヲ拇指ニテ押ストキハ油ハ其細口ヨリ迸出ス

該器ヲ船内ニ裝置スルニハ先ツ貯油罐ヲ火船ノ胴ノ間ニ据ヘ右舷船縁ノ内側ニ座金ヲ附シ之レニ支柱ヲ挿入ス支柱ハ座金ノ捻子ニヨリテ固定シ又ハ自由ニ廻轉スルコトヲ得ベシ送油管及ビ火袋等ハ總テナツツニ依テ連接セラル筈ハ風受ト共ニ自由ニ廻轉シ風向ニ從ツテ加減スベシ裝置終ラバ注油口ヲ開キ暗夜ノ長短ニ準ジテ石油三斗乃至六七斗ヲ罐中ニ容レ注油口ヲ閉ヂ罐内若シクハ罐側ナル唧筒ノ把手ヲ上下ニ動カシテ空氣ヲ壓シ入レ壓力計十三乃至二十封度ヲ示スニ至ツテ停メ次ニ紙屑若シクハ襪襪ヲ火袋ニ挾ミ送油口ノ捻子ヲ僅カニ廻轉シテ石油ノ少量ヲ噴出セシメ紙屑ヲ浸潤シ燐寸ヲ以テ之レニ點火シテ後徐々ニ捻子ヲ廻轉シテ石油ヲ噴出セシムル時ハ火勢次第ニ増加ス以上ノ如ク罐内ノ石油ハ壓搾空氣ノ壓力ニヨリ水煙ノ狀ヲナシテ火袋中ニ來リ其蛇管中ヲ通過スル間ニ火焰ノ熱ヲ受ケ氣狀體トナツテ火口ヨリ噴出スルヲ以テ石油ハ甚ダ燃ヘ易ク煌々銀白色ヲ呈シテ盛ニ燃燒ス其狀恰カモ火焰ヲ噴出スルガ如キ觀ヲナセリ而シテ送油口ノ捻子ヲ反對ニ廻轉スレバ火勢ヲ減ジ尙廻轉シテ之レヲ閉ツレバ直チニ消火ス

イ貯油罐  
 口注油口  
 ハ壓力計  
 ニ送油口  
 ホ唧筒  
 ヘ送油管  
 ト火袋  
 チ支柱  
 リ座金  
 ヌ笠  
 ル風受  
 ヲ油計  
 ヲ漏斗  
 カスパー



### 三、從來ノ篝火燈トノ比較

石油篝火燈ハ以上ノ如キ構造ニシテ使用法亦簡便從來ノ薪材篝火ニ比スレバ總テノ點ニ於テ優レリト雖多少復得失相反スル所ナキニシモアラズ左ニ項ヲ分ツテ之レヲ比較對照セン

#### (イ) 燃料購入及ビ運搬ノ便否

本縣下八田網漁業者ノ常ニ困難ヲ訴ヘツ、アルハ薪材ノ購入ナリ八田網一張一漁期間ニ要スル薪材ハ甚ダ鮮カザルヲ以テ一漁村數張ヲ有スル所ニアリテハ其數量實ニ莫大ニ達シ之レガ購入并ニ運搬容易ノ業ニアラズ況ンヤ交通不便ナル本縣ノ漁村ニ於テチヤ然ルニ石油ニアリテハ購入并ニ運搬共薪材ノ如ク困難ヲ感ズルコトナク之レガ供給比較的確實ナリ然シテ多量薪材ノ需用ハ勢ヒ水源地濫伐トナリ購入運搬ノ不便ハ近傍沿岸魚附林ノ伐採ヲ招クカ如キ數ノ免レザル所ニシテ石油ヲ用フルト薪材ヲ使用スルト漁業上直接及ビ間接ノ利害相距ル遠シ

#### (ロ) 火船操縦ノ便否

凡ソ如何ナル焚入網漁業ニ於テモ其巧拙ハ一ニ火船ノ操縦法ニ依テ岐ルト云フモ敢テ過言ニアラズ元ヨリ網船ノ行動モ大ニ關係スルコト論ヲ待タズト雖網船ハ船體大ニシテ操縦意ノ如クナラザルヲ以テ常ニ火船ニ於テ之レヲ加減セザルベカラズサレバ篝火器ノ裝置ニシテ苟シクモ火船ノ操縦ニ不便ヲ與フルモノハ未ダ以テ適當ナルモノトナス能ハザルモノナリ

闇長キ際火船ノ搭載スベキ薪材百五十貫内外ハ容積ニ於テモ將タ重量ニ於テモ實ニ著大ナルガ故ニ肩幅五六尺ノ船ニアリテハ操縦甚ダ困難ナルノミナラズ風波ニ對シ頗ル危険ナリトス殊ニ十貫目内外ノ鐵製篝火臺ヲバ船側ニ張り出シ此

上ニ薪材ヲ積重ナルガ故ニ船體ノ動搖激シク從業至難ニシテ石油篝火燈ニテ從業シ得ル程度ノ風波ニ對シテモ休業ノ止ムナキ場合アリ反之石油篝火燈ニアリテハ徑二尺高亦二尺ノ貯油罐ノ外何等容積及重量ノ以テ火船ノ操縦ヲ妨グベキモノナク船體ヲ小ナラシムルカ或ハ人員ヲ減ジテ尙同等以上ノ働キヲナスニ足ル等輕便ニシテ且ツ經濟的ナリトス

(ハ) 光力ノ不定

之亦篝火ノ優劣ヲ定ムル一要件ニシテ光力ノ一定ハ集魚上缺グベカラザル要素ナリ然ルニ何等風勢ヲ防止スベキモノアラザル洋上ニ於テ薪材ヲ欸ク完全ナル燃燒ハ殆ンド期スベカラザルヲ以テ光力ハ常ニ一衰一盛定マルコトナク集魚上甚ダ面白カラザルナリ而シテ石油ノ燃へ易キコト木材ノ比ニアラザルコトハ云フ迄モナキコトニ屬ス加フルニ以上説明セル如ク科學ヲ應用シテ先ツ石油ヲ温メ氣狀體トシテ一定ノ壓力ニヨリ同一火口ヨリ一様ニ噴出セシムルガ故ニ燃燒ハ勿論光力常ニ一定シ大概ノ風力ハ風受板ニ依リテ加減シ火勢ヲ保ツコトヲ得

(ニ) 光度及ビ浸透力

篝火ノ要ハ畢意其光力ト浸透力トノ大ナ欲スルニ過ギズ薪材篝火ニアリテハ火勢ハ徒ラニ上方及ビ四周ニ擴散シ最モ肝要ナル篝火臺直下ハ却ツテ比較的暗黒ノ狀態ニアリ從ツテ魚群ヲシテ臺下ニ密集セシムル能ハズ光力ノ波及圈内ハ魚群ノ游泳範圍ナルヲ以テ使網ニ際シ魚ノ網ニ衝キ當ルコト早ク漁獲ヲ全フスルコト困難ナリ然ルニ石油篝火燈ノ火勢ハ殆ント一小點ニシテ稍遠ク之レヲ望メハ銀色ヲ呈スル一大明星ヲ見ルガ如ク火焰ハ細孔ヨリ下方ニ向ツテ噴出スルガ故ニ四周ニ擴散スルコトナク被笠亦徒ラニ上空ヲ照スヲ抑エ火光ノ殆ンド總テ海中ニ向ツテ浸徹セシメ海中爲ニ圓錐體狀ニ照リ輝キ能ク數尋下ノ魚體ヲ透見スルコトヲ得ベシ其燭光及浸透ノ度ハ今遽カニ數字ヲ以テ詳説スル能ハザルモ之レガ有効的光力ハ到底從來篝火ノ比ニアラザルナリ

光力強大ナルモノハ平時集魚上有効ナルノミナラズ月出若シクハ拂曉時ニ効力長時間ニ亘リ漁獲ヲ全フシ得ルノ利アリ夫レ月ノ將サニ出テントスル時若シクハ東天次第ニ白ウナルノ時ハ是レ集魚ノ最モ疊密ヲ極ムル重要ナル時機ニシテ焚寄漁業者ノ瞬時一刻ヲ争フノ時ナリ此際此時光力弱キモノハ月光乃至ハ曉色ノ爲ニ其効力ヲ失フニ至ルベシ漁撈ノ術益々進ミ漁夫ノ技倆愈々巧妙トナルニ及ンデ斯カル場合篝火ノ一瞬時其効力ヲ持續シ得ルト否トハ其得失實ニ大ナルナリ

(ホ) 點火消火及ビ光力ノ増減

之亦篝火ノ活用上并ニ經濟上重要ナル關係ヲ有ス

石油篝火燈ノ點火消火并ニ光力ノ増減等ハ之レガ使用ノ條下ニ述ベタルガ如ク極メテ簡單容易ニシテ投網時其他火勢ノ強大ヲ要スル時ハ二個ノ火口ニ點火シテ速ニ其必要ニ應ジ使用終レバ直チニ消火シテ燃料ノ空費ヲ節シ其他光力ノ小増減ハ捻子加減一ツニ依テ自由ニ之レヲナシ得ル等恰カモ四肢ノ意ニ從フガ如シ薪材篝火ハ點火消火共ニ急激ノ求メニ應ジ難ク且ツ燃料ノ節約ヲナスコト能ハザルノミナラズ光力ヲ減セントスル場合ハ兎ニ角俄カニ之レヲ増大セントスルコト到底不可能ナリ薪ヲ添加スル時ハ一時却テ光力減衰スベシ添加多キニ失スレバ熱ヲ奪フコト愈々大ニシテ且其中間ノ如キハ空氣ニ接スル能ハザルヲ以テ益々燃燒困難ヲ來ス

(ハ) 破 損

薪材篝火ハ器具トシテハ篝火臺ノミニシテ假令破損アルモ漁夫各自ノ手工ニテ修繕ヲナシ得ベシ然リト雖モ石油篝火燈ノ破損ニ至リテハ爾カク簡單ニ之レヲ修理スルコト能ハズ而カモ屢々破損ヲ生ジタルコト前表記スル所ノ如シ之レ該器ノ一大缺點ニシテ大ニ改善ノ必要アル所ナリトス

石油鑛火燈使用試驗

(ト) 燃料

八田網其他焚寄網漁業經營上最モ多額ノ費用ヲ要スルハ實ニ燃料薪材代金ナリ一夜多キハ十數圓ヲ費シ一漁期間千五百圓乃至三千圓ノ多額ニ達ス石油鑛火燈ガ從來ノ篝火ニ比シ燃料消費額果シテ如何ハ本器使用試驗中最モ意ヲ用ヒタル所ナリ蓋シ如何ニ巧妙ニ如何ニ有効ナル器械ニアリテモ之レガ運用上多大ノ經費ヲ要シ收支爲ニ相償ハザルガ如クシハ復何ノ擇ブ所ナケレバナリ今消油量試驗ノ結果ヲ表示スレバ

石油鑛火燈用油量試驗表

月 日	大坪		川原		田式		備 考
	點 火 時 間	用 油 量	點 火 時 間	用 油 量	點 火 時 間	用 油 量	
五月十日	五、五〇	一、四〇	五、五〇	一、一〇			大坪式破損
五月十一日	八、一〇	二、三〇	二、四〇	一、七五			
五月十二日	三、五〇	一、〇〇	八、一〇	一、八五			
五月十三日	三、五〇	一、〇〇	三、五〇	一、五〇			
五月十四日	三、〇〇	一、七五	四、〇〇	一、八〇			
五月十五日	三、二五	一、〇〇	四、二〇	一、一〇			
五月十七日	二、〇〇	一、〇〇	二、三〇	一、四〇			
五月十八日	二、二〇	一、四〇	二、二〇	一、三〇			
五月二十日	二、〇〇	一、九〇	二、五〇	一、〇〇			
五月二十一日	一、〇〇	一、六〇	二、四〇	一、〇〇			
五月二十二日	一、五五	一、〇〇	二、五〇	一、〇〇			



石油燈火燈使用試驗

全月十七日	全月十六日	全月十五日	全月十四日	全月十三日	全月十二日	全月十一日	全月十日	全月九日	全月八日	全月七日	全月六日	全月五日	全月四日	全月三日	全月二日	六月一日	全月三十一日	全月三十日	全月二十九日	全月二十五日	全月二十四日
二、一〇〇	七、四〇〇	七、二〇〇	八、二〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	七、〇〇〇	三、二〇〇	八、〇〇〇	八、三〇〇	八、四〇〇	二、二〇〇	八、五〇〇	二、一〇〇	三、二〇〇	一、三〇〇	四、一〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、二〇五	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、一〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	六、七〇〇	二、二〇〇	一、五〇〇	一、七〇〇	二、三〇〇	二、七五〇	三、四〇〇	三、五〇〇	一、三〇〇	二、六〇〇	二、五〇〇	一、二〇〇	一、八〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇
二、三〇〇	八、一〇〇	八、〇〇〇	八、三〇〇	八、〇〇〇	二、二〇〇	八、〇〇〇	四、〇〇〇	八、〇〇〇	八、三〇〇	八、四〇〇	二、二〇〇	八、五〇〇	三、三〇〇	三、四〇〇	二、〇〇〇	四、三〇〇	二、五〇〇	三、三〇〇	二、〇〇〇	一、四〇五	二、〇〇〇
一、〇〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	五、七〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	一、四〇〇	二、五〇〇	三、三〇〇	一、一〇〇	二、六〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇五	一、六〇〇	一、七〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	九、〇〇〇

石油鑪火燈使用試驗

六月十八日	八、四〇	二、四〇	八、五五	二、四〇
合計	一四二、一五	四二、五〇	一六二、三〇	四二、七〇
均一時間油量		二升九合九勺		二升六合三勺

消油量總計 八石五斗二升 點火時間三十夜 三百〇四時四十五分間

備考 右表前即チ五月三日ヨリ全九日マデハ準備整ハズシテ記入チ欠ク

石油一箱ハ一斗入二罐即チ二斗入ナルベケレモ實際上各罐一斗ツ、充滿セルモノ殆ントナシ今計算チシテ實際ニ近カラシムル爲經驗ニ徴シ一罐ノ容量ヲ九升餘トシ之レガ經費ヲ算出セン

消油量八石五斗二升 四十七箱 一箱一斗八升餘

此代金百七十三圓九十錢也 一箱三圓七十錢 (明治四十年五月山川ノ相場)

內金十圓八十一錢也 空罐空箱四十七個代

差引金百六十三圓〇九錢也

石油一升代金十九錢一厘

更ラニ五月十日ヨリ三夜間從來ノ薪材篝火ト石油篝火燈トノ燃料消費高及集魚ノ狀況ヲ比較センガ爲薪材篝火船一艘ヲ廢シニ隻相并ンデ試驗セリ其結果次ノ如シ

五月十日

燃	集	魚	狀	況	一時間平均燃料消費高	全	上	代	金	備	考
	點火三時四十五分間		點火二時間								

薪	大坪式	川原田式	燃料	點火二時四十分間 點火二時五十分間	乘魚狀況	一時間平均燃料消費高	全上代金	備考
八七〇斤	一、四〇	一、一〇	魚影ナシ	魚影ナシ	一、九一	三六、五	松薪十斤六錢四厘	按網時二十分間二個點火
魚影ナシ	小烏賊 一七升	魚影ナシ	魚影ナシ	魚影ナシ	二、四三	四六、五	全	
	魚影ナシ	魚影ナシ	魚影ナシ	魚影ナシ	一五、一	九六、六		

五月十一日

薪	大坪式	川原田式	燃料	點火二時四十分間 點火二時五十分間	乘魚狀況	一時間平均燃料消費高	全上代金	備考
七六五斤	一、七五	一、七五	魚影ナシ	魚影ナシ	一三、九	八九、〇	破損	十斤六錢四厘
魚影ナシ	タレクチ 七升	魚影ナシ	魚影ナシ	魚影ナシ	三、一八	六〇、八	二個點火	
	魚影ナシ	魚影ナシ	魚影ナシ	魚影ナシ				

五月十二日

薪	大坪式	川原田式	燃料	點火二時四十分間 點火二時五十分間	乘魚狀況	一時間平均燃料消費高	全上代金	備考
九五〇斤	二、三〇	一、八五	魚影ナシ	魚影ナシ	一一、六	七四、二	十斤六錢四厘	
魚影ナシ	雜魚 二斗	雜魚 二斗	魚影ナシ	魚影ナシ	二、八一	五三七	全	
	雜魚 二斗	雜魚 二斗	魚影ナシ	魚影ナシ	二、二七	四三、四	按網時四十分間二個點火	

以上試驗ノ結果ニ徴シテ之レヲ見ルニ大坪式ハ川原田式ニ比スレバ一時間平均五合五勺餘ノ石油ヲ多費シ火力ハ消油量多キ丈強キヲ認メタレ、屢々其ノ唧筒部ニ故障ヲ生ジタリ兩器共一得一失直チ之レニ優劣ヲ附スルコト難シ而シテ何レモ從來ノ薪材篝火ニ比シ甚ダ優レルコトハ第二表ニ於テ明ナリ且ツ又其燃料消費高ニ於テ著シルシキ差アルヲ

石油篝火燈使用試驗

發見セリ今之レガ比較計算ヲナシ以テ如何ニ其差ノ大ナルカナ示サン

第二表ニ於テ薪材一時間ノ消費高ハ三回ヲ平均シ百三十五斤ナリ之レヲ第一表點火時間總計三百〇四時四十五分間ニ通算スル時ハ薪材ハ實ニ四萬千四百一十一斤ニ達シ十斤六錢四厘(四十年五月山川相場)ニテハ二百六十三圓三十錢トナル之レヲ石油代百六十三圓餘ト比較スルニ恰カモ百圓ノ差ヲ見ル僅カ三十四夜ノ出漁ニテ斯ノ如キ大差アリ若シ夫レ六ヶ月乃至九ヶ月間出漁スベキ該地營業者ニ於テハ其差實ニ莫大ナリト云フベシ而シテ本縣下八田網總數百六十張悉ク之レヲ使用スルニ至ラバ本縣下漁業經濟上ニ及ボス利潤亦大ナルベシ

#### 四、結 論

以上列舉セル七項ハ唯其要點ヲ掲グルニ過ギズ尙切割ノ手數雨露ノ豫防等詳細ナル比較ハ石油ト薪材トニ就テ吾人ノ常ニ目撃スル所茲ニ摘出列記スルノ要ナケン而シテ右七項中僅カニ破損ノ一項ヲ除外吾人ハ總テノ點ニ於テ石油篝火燈ノ甚ダ優レルヲ知レリ而シテ該器唯一ノ缺點タル損傷ハ之レ改善ノ途甚ダ難シトセス揖宿郡指宿ニハ川原田分工場アリテ修繕ヲナスニ便セリ然リト雖吾人ノ希望スル所ハ本器製作上更ラニ堅牢完全ヲ期センコト之レナリ

#### 五、取扱上ノ注意

- 一、本器ハ鐵工所ヨリ箱入トシテ送附セラルベキニ付キ箱入ノ儘船中ニ搭載シ使用後ハ蓋ヲ被ヒ置クコト
- 一、送油管ノすつくニ包マレタル護膜製ノ部分ハ折リ曲ゲザル様常ニ注意ヲ拂フベキコト
- 一、螺子ノ部ニハ時々種子油ヲ注グベキコト

一、火袋其他船外ニ張り出セル部分ヲ取扱フ時ハ先ツ支柱ヲ廻轉シ取扱ハントスル部分ヲ船内ニ到ラシメテ後之レヲナスベキナリ

一、唧筒ノ部ハ最モ破損シ易キヲ以テ取扱ニ注意スベク使用中ハ毎日一度ヅ、種子油ヲ塗布スベシ

一、使用後罐内ノ空氣ヲ漏除セシムル時又ハ使用中海上ニテ石油ヲ注加セントスル時ハ先ツ注油口ノ捻子ヲ徐々ニ廻轉シ罐内ノ空氣全ク漏洩シ壓力計ノ零度ニ達スルヲ待ツテ捻子ヲ外ヅスベシ然ラズンバ壓力ノ爲往々此捻子ヲ海中ニ吹キ飛バサル、コトアルベシ

一、漁期終了セバ先ツ罐内ノ石油ヲ除キ清水ヲ注ギ使用ノ際ト同様ニ壓力ニヨリテ送油管ノ端ヨリ水ヲ噴出セシメ（此際火袋丈ケハ取除ク）以テ各管内部ノ滓ヲ洗除シ次キニ水ヲ除キ石油ヲ注ギ同様少シク噴出セシム之レ水分殘留スル時ハ管ノ内部ニ錆ヲ生ズベケレバ之レヲ防ガンガ爲ナリ斯クシテ後空氣ヲ漏洩シ各所ヲ分解シテ能ク拭ヒ種子油ヲ塗布シ要所々々ハ布片ヲ以テ被包シ箱ニ納メテ保存ス罐内ニハ少量ノ石油ヲ殘留シ置クヲ良シトス之レ亦罐ノ内面ノ錆ヲ豫防スルガ爲ナリ

## 鱒流網試驗

### 一、試驗ノ目的

本場鱒流網ハ明治三十七年度ノ調製ニシテ爾來之ヲ當業者ニ貸與シ年々試驗ヲ重子多少ノ漁獲ヲ見タリト雖未ダ曾テ本場豫期ニ副フノ結果ヲ見ル能ハズ思フニ之レ種々ノ原因アルベシト雖事尙草創ニシテ使用ノ方法宜シキヲ得ザルト

一 漁場漁期適當セザルトニ基因スルガ如シ即チ本年度ニ於テハ五月二十日ヨリ八月十六日迄約八十日間漁場漁期ノ探檢調査ヲ兼テ本場直營ノ下ニ屋久島種子島近海并ニ日置郡及甑島近海ニ於テ之レガ試驗ヲ施行セリ

凡ソ何種ノ漁業ニアリテモ之レガ創始ノ時代ニアリテハ其適當ナル漁場ト漁期トヲ調査詳知スルハ肝要ナル條件ニ屬ス流網類ノ如ク廣汎ナル海面ニアリテ游泳通過スル魚類ヲ捕獲セントスルモノニアリテハ殊ニ之レヲ必要トス而シテ本縣沿海鱈ノ來游多キハ人皆知ル所ニシテ甑島津倉島宇治島近海出水薩摩日置川邊諸郡一帶ノ西薩沿海川邊郡ノ南岸海面及ビ屋久島種子島近海等本網ノ使用ニ適セル漁場甚ダ尠カラズト雖未ダ實地調査ヲナセシコトナキヲ以テ明確詳細ナル能ハズ唯僅カニ鰹船等ノ航海中幌引ヲ以テ釣獲シ若シクハ鱈ノ飛躍スルヲ認ムルノミニシテ之レガ漁期又ハ游泳ノ模様ニ就テ其眞況ヲ知ルモノナシ然カモ本場技術員ノ不足ナリシ爲今日迄本網ノ如キモ監督指導實地ニ漁場漁期其他ノ覈査ヲ遂グル能ハズ常ニ貸與試驗ニ附シ貸與者ノ自由ニ放任スルノ止ムナカリキ輒チ本年度ニ於テハ大ニ漁場漁期ヲ明確ニシス業啓發ノ基礎ヲ建ツルノ目的ヲ以テ專ラ試驗ヲ遂行シタリ

事情斯ノ如クナルヲ以テ本年度ニ於テハ先ツ漁業者ノ言ニ徴シ試驗期間ヲ五月乃至八月ト定メタリ然ルニ之レ眞ノ漁期ニアラズ剩サハ梅雨期ニ際會シ漁獲充分ナラザリシモ本試驗ノ結果鱈捕獲ノ期節ハ稍々確實ニスルヲ得タリ即チ屋久島及ビ種子島ニアリテハ二三四ノ三ヶ月ニシテ日置薩摩ノ沿海ニアリテハ十一月ヨリ翌年二月迄ヲ最モ適當ナル漁期トス

## 二、鱈流網出漁試驗表

# 鱒流網出漁試驗表

月日	天候	風力	風向	氣溫	水溫	潮流	潮流方向	投網方向	投網時刻	引上時刻	漁場	漁獲物	備考	
五月十日	快晴	無		三〇.〇	二〇.五	順緩		東微北	后七時	二〇時	片浦里沖	小鱈	一、	
全日	全	全		二八.〇	全稍急	東北	南微東	正	子前	七〇分	全			
全日	全	全		三五.〇	二〇.〇	緩	南	西	后七時	一〇〇分	小湊里沖	鱈	三、	
全日	全	全		二七.五	全	全	南々東	前〇時	前	五〇分	久吉間島		午前一時風雨強キ爲メ歸場	
全日	少雨	疾	南々東	三〇.〇	二〇.五	急	北	西南西	后七時	二〇分	小湊里沖		時化ノ爲メ休漁	
全日	雨	強	南西										全上	
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											
全日	全	全	全											

鱒流網試驗

二十三

二十七日日本場野間池秋目ニ寄港シ三十日西ノ表ニ著  
 六月一日住吉港入港全三日屋久島宮浦ニ著ス四、五六  
 日時化

流ル、コト約五海里ニ及テ漁獲ナシ

浮標網ヲ三尋ニ縮ム

午前九時一湊港ニ入ル





四全	三全	二全	一八	卅全	三全	二全	二全	廿全	自全	二全	自全	自全	自全	十三
日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	自全	日月	自全	自全	自全	十三
雨	曇	全	全	全	晴	晴	曇	雨	自全	驟雨	雨	雨	晴	晴
疾	全	全	全	全	疾	和	疾	疾	疾	疾	和	強	無	無
南	全	東北	南	東北	全	全	南	全	全	全	東	暴	全	全
	七〇	五五	全	全	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	五〇	三〇
	七〇	全	急	全	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	五〇	三〇
	稍急	全	西南	東北	全	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	頓急
	東南	南	西北	北	全	東北	東北	東北	東北	東北	東北	東北	不定	全
	北	全	西北	北	全	北	北	北	北	北	北	北	全	全
	東	后	北	北	后	北	北	北	北	北	北	北	后	前
	七〇	七〇	后	后	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	七〇	二〇
	前	前	前	后	后	后	后	后	后	后	后	后	前	前
	〇四	〇三	〇三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	〇三	四〇
	全	秋	野	片	伊	新	野	野	野	野	野	野	大	全
		目	間	浦	作	川	間	間	間	間	間	間	竹	全
		沖	沖	沖	沖	沖	北	北	北	北	北	北	崎	全
			ス	小	小								鱈	
			ホ	鱈	鱈								魚	
			タ											
			四、	三、	一、								二〇、	
			野	雷	網								網	
			間	雨	纜								暗	
			池	ノ	附								礁	
			ニ	為	浮								ニ	
			入	メ	竹								カ	
			港	午	ニ								カ	
			ス	前	經								ル	
				一	絡									
				時	セ									
				歸	リ									
				港	シ									
				ス	ヲ									
					以									
					テ									
					引									
					キ									
					揚									
					ガ									

餘流網試驗



鯨流網試験ハ前記日誌ニ記スガ如ク六月七日ヨリ七月十日迄屋久島沿海ニ以後全月二十日迄種子島近海ニ於テ施行シ  
專ラ漁場ノ探檢ヲナセリ然リト雖是レ各種正確ナル器械ヲ用ヒ長日月ヲ費スニアラザレバ其精細ヲ知ルコト固ヨリ望  
ムベカラズ殊ニ兩島近海共未ダ海國ノ叛行ナク加フルニ梅雨期ニ際シタルヲ以テ充分ナル調査ヲ遂クル能ハザリシ今  
左ニ其梗概ヲ記ス

(イ) 屋久島

屋久島ハ佐多岬ノ南方約三十五海里ニ位ス周圍二十有五里不規則ナル四角形ヲナシ上屋久及ビ下屋久ノ二ヶ村ヨリ成  
レリ全島皆山突兀トシテ屹立シ屋久嶽及ビ宮浦嶽最モ高峻六千四百尺ニ達シ縣下最高ノ山峯ナリ滿山悉ク鬱蒼タル樹  
林ヲ以テ被ハレ清冽ナル谿流ニ富ム平地少クシテ道路險惡交通極テ不便ナリ沿岸出入多シト雖港灣ノ能ク大船ヲ容ル  
ベキナシ宮浦楠川安房栗生長田一湊等漁船ノ碇泊ニ足レテ風向又ハ潮時ニ依リ何レモ出入安全ナリト云フ能ハズ鯨文  
鱈魚及鯖漁業盛ンナリ其他ノ魚類亦夥シト雖未ダ進デ之レガ捕獲ノ途ヲ講スルモノナシ左ニ今回調査シタル上屋久全  
沿岸及ビ下屋久村ノ内安房近海ニ就テ之レヲ述ベントス但シ天候其他ノ關係上充分ノ調査ヲ遂グル能ハズ且ツ又屋久  
島全島ヲ一周スル能ハザリシヲ遺憾トス

上屋久村大字宮浦ハ屋久島ノ北方宮浦川ノ河口ニアリ本島中屈指ノ良港ニシテ日々内地トノ航通アリ北海上約三海  
里ノ所ニデみづ曾根ト稱スル暗礁アリテ礁上五十尋ノ深度ヲ保チ各種魚類常ニ此處ニ纏綿セリ本島鯨釣漁業者概チ此  
處ニテ釣獲ヲナス宮浦ハ飛魚漁及ビ鯖釣ノ外何等漁業ノ行ハル、ナク以前鯨釣漁船數隻アリシモ今ハ廢滅シテ跡ナク  
飛魚亦數年來上屋久村ニ寄セズ村民甚ダ生計ニ窮シツ、アリ

宮浦ノ西方一里ニ志戸子アリ漁船ノ碇泊ニ足ラズト雖文鱈魚及鯨漁業行ハルまづ曾根あさ瀬等魚類ノ群棲所ニシテ沿

岸又魚簇多シ西方矢筈崎ヲ巡レバ一湊ニ達ス河口甚ダ狹塞セリト雖漁船ノ出入ニハ左迄困難ナラズ河中ニ入レバ廣濶能ク十百ノ漁船ヲ容ルベシ上屋久村ノ内漁業最モ盛大ナル所ニシテ就中鯉漁業ヲ以テ顯ハル本島及内地ノ鯉船此處ニテ漁獲物ヲ賣却シ彼ノ屋久節多クハ此處ヨリ產出ス西北約十海里ニ屋久曾根アリ各種魚類多ク殊ニ鯖ノ群集夥シト云フ途中吉田ノ小漁村ヲ過ギ永田ニ達ス永田河口ニアリ永田崎燈臺下ニ位ス又文鯨魚及鯉漁業行ハル永田以南ハ潮流甚ダ急激ナリ

楠川ハ宮浦ノ東方一里弱ノ所ニアリ港口岩礁點在シ礁嶼ノ間ヲ縫フテ入ルベシ沿岸程遠カラヌまいの曾根ト稱スルハ礁上五十尋ノ水深ヲ有シ魚類多ク集ル鯉漁船五艘アリ島中富祐漁村トシテ聞ユ東方瀧川小瀬田ヲ過ギ早崎ヲ巡レバ潮流頓ニ急激海岸之レヨリ南方ニ向テ船行ヲ經下屋久村安房ニ至ル楠川以東漁船ノ寄ス可キナシ安房ハ屋久島東海岸唯一ノ港ニシテ安房河口ニアリ港口數個ノ暗礁アリト雖漁船ノ出入ニ叶フ魚類豐富ナレト飛魚網數張ノ外漁業行ハレズ村民唯僅カノ田畑ヲ耕シ冬季砂糖ノ製造ヲナスノミ徒ラニ事業ノナスナキヲ嘆シ生計ノ難ヲ悲シミツ、アリ

要スルニ屋久島近海ハ漁類非常ニ多キモ僅カニ二三種類ノ外漁業ノ行ハル、ナシ思フニ之レ海洋ノ狀況其他別種漁業ノ企畫上困難ナル原因アルニ基因ス可シト雖島民ハ毫モ進取的氣風ノ存スルナク無闇ニ他ノ新規漁業ヲ排斥シ古來ノ舊風ヲ墨守スルコト甚シキニ依ラズンバアラズ今左ニ本島漁業不振ノ原因トシテ潮流ノ急激港灣ノ缺乏雨量ノ過大魚價低廉及ビ島民ノ氣風ノ五者ヲ數ヘ此等ニ就キ少シク記述スル所アラントス蓋シ漁業試驗及ビ獎勵上參考ノ資タルヲ信ズレバナリ

海流潮汐ノ方向速度等ニ就テハ短時日ノ能ク調査斷言シ得ル所ニアラズト雖本試驗中ニ於ケル六月及七月ノ概要ヲ記サントス

南海ヨリ來ル黒潮ノ暖流ハ下屋久村栗生邊ニ衝リテ岐レ各々沿岸ニ沿フテ一ハ東シ一ハ北ス其北流セルモノハ永田崎ヨリ方向ヲ東北ニ取り大隅海峽ニ向フ途中ニ於テ右折スル一派ヲ出シ上屋久ノ北岸ヲ洗ヒ南東ニ向ツテ種子島海峽ヲ通過シ安房沖合ニ至テ栗生ヨリ東流セル一派ト合スルモノ、如シ

潮汐ノ干満流ハ屋久島沿岸到ル處流勢急ニシテ上屋久村ニ於テハ早崎近傍種子島海峽ヲ最モ迅速ナリトス下屋久ニアリテハ栗生近海急激ナリト云フ滿潮ハ東南ヨリ來リ安房近傍ヨリ左右ニ分岐シ全島ノ沿岸ヲ洗フテ島ノ西北端矢筈崎ニ於テ合シ沖合ニ去ル干潮ハ全ク之レニ反シ矢筈崎ニ於テ分レ安房邊ニ會ス而シテ干潮ハ滿潮ニ比シ流勢急ナリ殊ニ下屋久村ニ於テ此差殊ニ著シ之レ海流トノ協力ノ結果ナランカ六月十日一湊ヨリ永田ニ赴カントシ吉田ノ沿岸ニ於テ死力ヲ盡シテ船迦ヲサリシコト及六月二十日下屋久村船行沿岸投錨ノ際船ハ錨ヲ曳キツ、一時間半海里ヲ流レタルトノ二個ノ實見ハ朔望大潮時ニ於ケル流勢ノ程度ヲ想像スルコトヲ得潮流斯ノ如キニ方リ方向相反スルノ風來リテ水面ニ激スレバ忽チニシテ所謂潮流(タイドウエーブ)ヲ起シ漁船ノ航行甚ダ困難ヲ感ズルコトアリ

六七兩月間ニ於ケル實見ニヨレバ小潮時ニアリテハ矢筈崎小瀬田間即チ一湊宮浦及ビ楠川沖合ハ潮流緩ニシテ本網(儲流網)及ビ他種網具ノ操縦左迄困難ナラザルベシ漁業者ノ言ニ依レバ本期(六七月)ハ潮流最モ甚シキ時ニシテ春秋兩季ニ於テハ其半バニモ達セザルベシト果シテ然ラバ更ラニ好都合ナリト云フベシ

南海暖流ノ衝ニ當リ突兀六千餘尺雲ヲ凌イテ聳ユ氣象ノ變化常ナカルベキハ誰人モ想像スルニ難カラザル所ナリ加フルニ上述ノ潮流潮浪ヲ以テス小漁船ノ出漁困難ナル所以ニシテ沿岸亦安ンジテ避難ス可キ港灣ナク何レモ礁間若シクハ狹塞セル河口港ナルガ故ニ暴風潮浪等ニ依リ出入甚ダ危険ナリ且又地勢斯ノ如キヲ以テ雨量頗ル多ク島民ノ俚言ニ一ヶ月三十五日雨天ト宜ナル哉滯在中入梅前ヨリ降雨夥シク梅雨中ハ勿論以後旬日青空ヲ見ルコト稀ナリキ他ノ期節

ニ於テモ亦常ニ多雨ナリト云フ出漁至難ノ一因ナリ而シテ水源地甚ダ近キヲ以テ豪雨ノ後ハ河水忽チ漲溢シ奔流屢々木材ヲ流シ來リ安ンジテ碇泊スルコト能ハズ

屋久島ノ地タル人口稀薄ニシテ交通不便ニ村落ハ何レモ海濱ニアリテ各自食スベキノ魚類ハ濱邊ニ出デ、釣ヲ垂レ或ハ丸木船ヲ以テ僅カニ出漁釣獲シ之ヲ買求ムルコト稀ナリ啻ニ魚類ノミナラズ總テノ必要品ハ各々自カラ之ヲ採取シ一ヶ年間ノ入用物ヲ貯ヘ賣ラズ買ハザルノ主義ヲ固持セルガ故ニ島民ノ需用ヲ目的トスル食料品ノ如キハ需用ノ途極メテ鮮シトス剩ヘ海ヲ離ル、村落一モ之ヲナキヲ以テ節類若シクハ乾製シテ内地ニ輸送シ得ルモノ、外魚價著シク低廉ナリ時化引續キ各自釣獲スル能ハル時ニ於テモ鰯秋太郎等一斤二錢乃至三錢ヲ普通トス加之稍々多量ノ漁獲アリテ一村落ノ需用ニ餘ル時ハ價格ノ如何ニ拘ハラズ賣却ニ苦ムコトアリ夏季腐敗シ易ク而カモ雨後交通ノ途絶シタル際ノ如キ殊ニ然リトス是レ漁業不振ノ一大原因ナリ節類若クハ乾製(文鱈魚開キ)シ内地ニ輸送シツ、アルモノニアリテハ殆ンド内地ト同様ノ價格ヲ保ツト雖斯ル多雨ノ地ニ於テ乾製品ノ製造ハ頗ル困難ヲ感ズ況ンヤ内地トノ交通ハ宮浦ノ一ヶ所ニ限り一湊栗生及ビ安房ハ荷物ノ都合ニヨリ時々寄港スルノミニシテ甚ダ期待シ難キヲ故ニ所爲ラク本島漁業ノ發達ヲ謀ランニハ漁獲物ノ價格ヲ昂上シ經濟上收益ノ大ヲ計ルヨリ先ナルハナシ魚價ニシテ今少シク騰貴セシカ漁業ノ發達ハ自然好況ニ向ハンコト必セリ即チ先ヅ水産製造法ノ普及若シクハ其設備ヲナシ而シテ後之レガ捕獲ノ途ヲ講ジ以テ漁撈ノ發達ヲ期セザルベカラズ

次ハ島民ノ氣風甚ダ狹小ナルコト之レナリ是レ漁村一般ノ弊習ニシテ漁業未開ノ地ニ於テハ殊ニ其然ルヲ見ル或ハ外來漁業者ヲ排斥シ或ハ舊慣ヲ墨守シ嶄新ナル漁業ノ開始ヲ嫌フ等斯業ノ改良發達ヲ阻害スルハ各地ニ於テ屢々之レヲ見ル所ニシテ先ヅ漁民ノ智識ヲ啓發スルニアラズンバ之レヲ改ムルコト困難ナルヲ以テ敢テ之レガ氣風ヲ詳記スルコ

トナ止メ

詮ズルニ本島漁業不振ノ原因トシテ以上列記セシ五者ハ夫レノ重要ノ關係ヲ有スト雖就中島民ノ氣風斯ノ如キモノ其根底ヲナスモノト信ズ然リ而シテ本島漁民ノ技術甚ダ見ルベキナク僅カニ一二種ノ漁業ニ通ゼル漁夫ニ對シ最モ起業ノ容易ニシテ且ツ之レガ獎勵大ニ其効ヲ顯ハシ隨ツテ本島漁業改善發達ノ端緒タルベキモノハ實ニ釣漁業ニアリテハ鑿延繩網漁業ニアリテハ鱒流網ナリ共ニ漁具ノ調製費並ニ經費嵩マラズシテ起業容易ニ使用ノ方法亦比較的熟達シ易ケレバナリ乍併流網類ノ漸ク隆盛ナルニ及ンデハ鰹釣漁業其他ニ幾分ノ影響ヲ及ボサンコト或ハ免レザラン然リト雖何種ノ漁業タルニ論ナク他ノ漁業ニ影響セザルモノハナク同一種類ノ漁業ニ於テモ亦然リ例バ同一漁場ニ於ケル鰹船ノ増加ハ鰹船全體ノ上ニ幾分ツ、ノ影響アルベキハ數ノ免レザル所ナラン茲ヲ以テ啗ニ他種類ノ漁業ニ對シテノミ之レヲ責ムルハ甚ダ當ヲ得タルモノト云フベカラズシテ入口ノ増加ト人智ノ進歩トガ當然漁業界ニ要求スベキ事柄等ニ思ヒ及バ、斯ノ如キ度量ノ狹小ナルハ漁業全般ノ發達改善上決シテ喜ブヘキニアラザルヲ知ルベシ況ンヤ廣汎タル洋上ニ於ケル數張ノ流網ノ影響スル所決シテ著シカルベカラザルニ於テチヤ然リト雖其影響ノ程度ト利害得失等詳細ナル點ニ就テハ尙充分ナル調査ト研究トチ重子タル後ニアラザレバ俄カニ明確ナル斷言ヲ下ス能ハザルナリ屋久島近海ニ於テ鱒流網漁場トシテ適當ナルハ同島ノ北沿岸矢筈崎小瀬田間即チ一湊宮浦及楠川沖合ニシテ同島南岸ハ調査セザルヲ以テ詳カナラザルモ東岸及西岸ハ潮流急激ニ失シ本網ノ使用ニ適セズ漁期ニ至リテハ本試驗實施ガ全ク漁期以外六七月ナリシヲ以テ確實ニ云フベカラザルモ思フニ毎年春季三四月ナランカ而シテ此時期ニ於テハ潮流比較的緩漫ナリト云フ果シテ然ランカ益々以テ好漁場タルナリ蓋シ本試驗中常ニ困難ヲ感ジタルハ潮流ノ早キニ失シタルニアレバナリ

## (ロ) 種子島

種子島ハ佐多岬ノ東南二十餘海里ニアリ南徹西ニ狹長スルコト十七里其南端ハ屋久島ノ中央部安房港ノ東方十五海里ニ達ス地勢平夷ニシテ良港ニ乏シク西ノ表ノ外安全ニ漁船ノ繫留スベキ所ナシ中種子村住吉港ハ西ノ表ノ南方八海里ニアリ本島西岸第二ノ港灣ナリト雖灣口廣潤ニシテ暗礁多ク西南ノ風ニ際シテハ碇泊スルコト能ハズ灣内水淺ク干潮時總テ干瀉トナル屋久島ノ北岸ヨリ東ニ向ツテ流れ來ル海流及潮流ハ住吉崎ニ衝リテ岐レ一ハ北シ一ハ南ス而シテ干潮ハ北流シ滿潮ハ南流スルヲ常トスレ之レ常ニ一定スルコトナシ南種子村竹崎ハ種子島南東ノ岬角ニシテ數個ノ岩礁間ニ船ヲ繫グベク高波ノ際ハ出入スル困難ニシテ灣内モ亦浪激シ稍々風強キ時ハ一々船ヲ引揚ゲザルベカラズ海流東ニ向テ強勢干潮ハ西ニ向フト雖流勢甚ダ微弱ナリ其東方ニ當リテハ最早船ヲ奇スベキ港ナク洋々タル太平洋ナルヲ以テ漁民甚ダ出漁ヲ恐ル約一里ノ南方沖合ニ鱒其他各種魚類多キ暗礁アリ鱒ノ來淤多キハ二三四ノ三ヶ月間ナリト云フ當種子島ハ滞在時日短カ、リシ爲メ調査全カラズ他日ヲ期シテ該漁期本網試験ヲ重子詳細ナル報告ヲナサントス

## いわし揚繰網試験

本試験ハ明治三十六年度以來ノ繼續事業ニシテ志布志ニ波見ニ或ハ柏原ニ根據ヲ定メテ或ハ貸與シ又ハ直營シ漁場ヲ換ヘ方法ヲ變ジ年々有明灣沿海ニ於テ専心試験ヲ重子タルノ結果ハ毎年度報告書ニ之レヲ記シタルガ如ク着々トシテ其成績ヲ擧ゲ續々本網ノ新調起業ヲ見今ヤ揚繰網ハ有明灣ニ於ケル鱒捕獲漁具トシテ重要視セラル、ニ至ル輒チ本試験ノ目的將ニ遂ゲ聊カ本縣漁業ノ改進ニ裨献スルアリタルヲ觀本場ノ苦心焦慮空シカラザリシヲ喜バンドス今左ニ有明灣ニ於ケル揚繰網數ヲ示セバ



串長 竹下才造外四名共同 明治三十八年新調

志布志 山下善造 全

大崎 後閑紫岫 全

柏原 岸尾林袈裟 全 四十年新調

網長サ二百三十間 内魚取二十五間

幅手元二十四間 ふきだし二十八尋

調製費七百圓也

柏原 甲斐徳助外三名共同 全

網ノ構造及經費同前

志布志 兒玉伊兵衛 全

網長サ二百三十五間 内魚取二十八間

幅手元二十三尋 ふきだし二十八間

調製費三百圓也

以上六張ニシテ何レモ相應ノ漁利ヲ舉ゲ或ハ未曾有ノ大漁ヲナシツ、アリ而シテ之レガ調製ニ際シテハ本場員ナシテ  
特ニ出張セシメ實地指導其作製ニ當ラシメヌ即チ本年度ニ於テハ

七月一日ヨリ全七日迄七日間 柏原岸尾林袈裟

九月廿六日ヨリ全卅日迄五日間 柏原甲斐徳助外三名

さわし揚繰網試験

十一月五日ヨリ全八日迄四日間 志布志見玉伊兵衛

右ノ如キ日割ヲ以テ出張指導シ網地綱類環鉛等一切ノ入用品購入モ亦之レヲ本場ニ於テ幹施セリ而シテ當業者ニ於テハ事未ダ創始ナルヲ以テ網ノ構造理想的完全ヲ欲スルヨリモ先ツ可及的調製費ノ節減ヲナサルベカラズ而シテ多少ノ收利ヲ擧ゲタル後ニ於テ益々事業ノ擴張漁具ノ完成ヲ謀ルヲ以テ最モ容易ニ且ツ確實トナスガ故ニ本場ニ於テハ大ニ此點ニ苦心シ揚繰網ノ最盛大ヲ極ムル千葉縣下ヨリ相當ナル古網地ヲ搜索購入シテ之レニ充テタリ故ヲ以テ以上示セルガ如ク三百圓若シクハ七百圓ノ安値ニテ之レヲ調製スルヲ得當業者ニ於テモ甚ダ之レヲ喜ビ兩三年ノ後更ラニ完全ナルモノヲ新調セント意氣込メリ業態既ニ斯ノ如シ本場試験ノ主趣自的今更茲ニ喋々ノ要ナシト雖試験ノ結果ヲ覈査シ其有望ヲ確認シ之レヲ獎勵スルニ於テ當業者傲フテ以テ該事業ヲ開始シ相應ノ利益ヲ擧ケ益々事業ノ擴張ヲ見ルニ至リテ本場試験ノ目的茲ニ遂ゲタリト云フベク爾後ハ此等新規起業者ガ益々努力以テ收益ヲ増大シ本縣下漁業改良ノ範ヲ示サンコト本場ノ最モ希望スル所ニシテ亦勉メテ之レガ助力ヲ與フルニ吝ナラザルベシ從ツテ最早有明灣中志布志柏原方面ニ於テハ既ニ本網試験ヲ重ヌルノ必要ヲ認メズ唯同灣中未ダ一回ノ試験ヲモ試ミザルハ僅カニ内浦方面アルノミ

有明灣ノ地勢海況鯷群來ノ模様并ニ起業者ニ對スル注意要項等ハ擧ゲテ昨三十九年度本場事業報告書ニ詳記シタリ而シテ内浦灣ガ揚繰網漁場トシテ適切ナラザルコトモ併セテ之レヲ云ヒキ然リト雖之レ絶對的不能ト云フニアラズ沿岸數町乃至一海里以内ハ該網ノ使用ニ適シ其他經營方法ノ如何ニアリテハ同地ヲ根據トシ揚繰網漁業ヲ營ムコトヲ得ベキノ望ナキニアラズ本年六月内浦村漁業者相長新右衛門ナルモノ有明灣各地ニ揚繰網漸ク盛ナラントスルニ當リ内浦獨リ之レヲ傍觀スルノ甚ダ愚劣ニ類スルヲ慨シ熱心之レガ貸與試験ヲ出願スルアリ茲ニ於テ本場ハ以上種々ノ事情ト

トナ酌量シテ之レヲ許可シ十月六日ヨリ十二月六日迄本場々員監督ノ下ニ試験ヲ行ヒタリ然ルニ本年度ハ鯧來游ノ期節甚ダ後レ試験期中殆ンド魚影ヲ認メズ爲ニ充分ノ結果ヲ見ル能ハザリシハ頗ル遺憾トスル所ニシテ獨リ本網ノミナラズ有明灣各種ノ漁業トモ全ク不漁ニ終リタリ

### 秋季鯧餌料小鯧網試驗

出水郡阿久根村沙瀉ハ明治三十八年以來年々本網ノ試験ヲ重子タル所ニシテ既往ニケ年ノ結果ニ徴シ愈々本網ノ必要有望ヲ確認シタリ而シテ其經驗ニ依リ全地小鯧捕獲ノ時期ハ毎年九月下旬乃至十一月上旬ニシテ以後鯧ハ體形稍々大トナリ鯧餌料ニ適セザルニ至ルヲ知リ本年度ニ於テハ九月廿七日ヨリ十一月一日迄三十六日間本試験ヲ行ヒ以テ初年來試験ノ目的ヲ繼承シ之レガ遂行ニ勉メタルノ結果愈々好望ニ向ヒツ、アリ今其從業日誌ヲ左ニ掲ク

### 秋季鯧餌料小鯧網試驗從業日誌

月日	天候	漁場	使網時刻	風位	風力	水深	潮流方向	緩急	氣温	水温	比重	底質	漁獲物	數量	記	事
九月廿七日	曇	さたか曾根	后	九〇〇	東	軟	二五〇西北	緩	二五〇	二四〇	一〇三	砂	小鯧、鯧	四		
全日	全	全	全	九〇〇	全	全	全	全	全	全	全	全	鯧	三五		
全日	全	全	全	二〇〇	全	全	全	全	全	全	全	全	鯧	三〇		
廿八日	全	全	全	九〇〇	無	一	二五〇	稍急	二五五	三三九	全	全	小鯧	四〇	蓄	養

秋季鯧餌料小鯧網試驗

全日	全月	全日	全日	全日	全日	全日	一月	全日	全日	全日	全日	全日	廿九日	全日	全日	廿八日
全	全	全	全	晴	全	曇	晴	曇	全	全	全	全	全	全	全	曇
全	全	全	全	きたか菅根	全	めたけ菅根		全	全	全	全	全	全	全	全	きたか菅根
全	全	全	前	正	全	全		全	正	全	全	全	全	正	全	后
1000	900	1000	000	子	1000	1000		1000	子	1000	900	子	900	子	200	900
全	全	全	全	全	全	軟	強	東北	全	全	和	全	全	軟	北	無
1200	1200	1300	全	全	全	300		元0	270	全	全	全	全	350	全	100
全	全	全	全	全	全	感知		全	全	全	西	全	全	全	北	稍
全	全	全	全	全	全	頻		全	全	全	緩	全	全	全	急	急
全	170	1300	全	全	全	300		1200	300	全	全	全	全	全	全	全
全	1200	全	全	1000	全	1000		全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	砂		全	破貝	全	全	全	全	全	全	砂
全	全	小鯉	無	無	全	小鯉		小鯉	小鯉、鱒	全	全	小鯉	全	全	全	小鯉
90	80	190			120	160		40	25	35	30	05	10	10	30	1斗
蕎麥	蕎麥	蕎麥			八斗ヲ	二箱ニ	時化ノ爲メ	強風高浪ノタメ		蕎麥	蕎麥					蕎麥
		箱ナキ爲メ					休業	使網基力ム								
		乍遺														
		不能														
		阿久根														
		へ廻														
		船シテ														
		意却														

十日	九日	八日	七日	全日	全日	六日	五日	全日	全日	全日	全日	四日	全日	全日	全日	
全	晴	雨	全	全	全	晴	雨	全	全	全	全	曇	全	全	全	
きたか曾根		南きたか曾根		全	全	めつけ曾根		全	全	全	全	全	全	全	全	
前		后		前	全	后		前	全	全	全	后	全	全	前	
四〇〇		九〇〇		一〇〇	二一〇	一〇〇		一〇〇	二一〇	二一〇	二一〇	九〇〇	四〇〇	一〇〇	一〇〇	
北	全	東北	東北	全	全	北	東南	全	全	全	全	無	全	全	全	
軟	強暴	疾	強	全	全	和	強						全	全	全	
二四〇		二九〇		全	全	二〇〇		全	全	全	全	三〇〇	二五〇	二四〇	二四〇	
南々西		南		全	全	南		全	全	全	全	全	全	全	全	
急		急		稍急	全	緩		全	全	全	全	全	全	全	全	
一八五		一九五		二〇〇	全	三〇〇		三〇〇	全	三〇五	全	三〇〇	三三〇	三三〇	三三〇	
三〇〇		三三五		全	全	三〇〇		全	全	全	全	三三六	全	全	全	
一〇三		一〇三		全	全	一〇三		全	全	全	全	全	全	全	全	
砂		砂		全	全	砂		全	全	全	全	貝殻砂	全	全	全	
鱈		ウルク		全	全	鱈		全	全	全	全	小鱈	鱈、鱈	鱈、鱈	鱈、鱈	
二八		五〇			二〇	四〇		五〇	六〇	五〇	二〇	二〇	四〇	二〇	二〇	
臨時漁夫四名ヲ雇ヒ出流ス		午後九時東北風強ク雨亦激シ鱈船七艘相前後シテ離岸ニ就ク強風愈強氣壓ニ暴火ヲ呈シ目撃ヲ示ス		網層礁ニカハリ破レ魚悉ク脱出ス		休業ス活簞一個波浪ノタメ破碎シ苦魚凡テ脱出ス		全 阿久根ニ廻船賣却ス	全	全	全	箱ナク苦養不能	八斗五升ヲ苦養ス	阿久根ニ廻船シ漁獲物ヲ賣下ク		

秋季鱈餌料小鱈網試験

全日 廿五日	全日 十九日	全日 十八日	全日	全日 十七日	全日	全日 十六日	全日	全日 十五日	全日 十四日	全日 十三日	全日	全日 十二日	全日 十一日
晴	雨	晴	全	曇	全	全	全	全	全	晴	全	雨	晴
砂		砂	全	きたか曾根	全	めつけ曾根	全	六砂湯南微西海	全	全	全	めつけ曾根	きたか曾根
渇		渇	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	前
卍后		全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	四〇〇
六三北微裏		五〇〇北	四三〇全	四〇〇東北	五〇〇全	四〇〇無	四三〇全	三〇〇北	五〇〇全	四〇〇東北	四三〇全	二〇〇東	四〇〇北
軟	南疾強	全	全	軟	全	全	全	全	微	全	軟	全	和
二〇〇		二九〇	全	二〇〇	全	二〇〇	全	三五	三〇〇	三五	全	三六〇	二四〇
北		全	全	南	全	無	全	南	無	全	全	北	南々西稍急
稍急		急	全	稍急	全	全	全	緩	全	全	全	緩	一七五
一八〇		一九〇	全	二〇〇	全	一五五	全	一八〇	一六〇	二〇〇	三〇〇	三五	三〇〇
三〇		二〇	全	三〇	全	全	全	全	三〇	三〇	全	三三	三〇
一〇三		全	全	一〇三	全	全	全	全	全	全	全	一〇三	一〇三
砂		砂	全	砂貝殻	全	砂岩	全	全	砂	全	全	岩	砂
鱈		小鯉	全	全	小鯉	鱈鯉顯ウルク	全	小鯉	小鯉	全	全	鱈	ウルク
四〇	月夜休業 網修繕ヲナス	三〇 蕃養	二〇	二五 場長巡視隨檢 一籠ニ蕃養ヲ稍ウルクヲ混ズ	五〇 蕃養	二〇	五〇 蕃養全上	七〇 蕃養 鱈十數尾ヲ混ズ	一〇〇 一石ヲ蕃養ス内ウルクメ一斗ヲ混ゼリ	一〇〇	二五	六〇	二〇

全 三十日	全 日	全 日	全 廿九日	全 日	全 日	全 廿八日	全 日	全 日	全 日	全 日	全 廿七日	全 日	全 廿六日	全 日	全 日	
全	全	全	曇	晴	全	曇	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
きたか曾根			めつけ曾根								きたか曾根 しめつけ曾 根中間					
全 九〇	全 二二〇	全 一〇〇	全 一〇〇	全 一〇〇	全 七〇	全 七〇	全 九〇	全 六〇	全 六〇	全 六〇	全 五〇	全 七〇	全 六〇	全 七〇	全 七〇	
全	全	全	全	全	全	北東	全	全	全	全	東北東	全	北東	全	全	
全	全	全	和	疾	和	全	全	全	全	全	軟	全	和	全	全	
三〇	全	全	三〇	全	全	三〇	全	全	全	全	三九	全	九五	全	全	
北東	全	全	全	全	全	北	全	全	全	全	無	全	全	全	全	
全	全	全	全	全	全	緩	一	一	一	一	全	全	緩	全	全	
一九〇	二五〇	二六〇	二七〇	二八〇	全	一九〇	二七〇	全	全	一六四	一九五	全	一九〇	二六〇	全	
三五	全	全	三〇	全	全	全	全	全	全	全	二五	全	三〇	全	全	
全	全	全	一〇	全	全	一〇	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
砂	全	全	貝殻砂	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	小 鯉	ウ ルメ	全	ウ ルメ	全	全	
二〇	五〇	三〇	九〇	六〇	二六〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	一〇	四〇	二〇	二〇	三〇	
			蕎麥	全	乍造燐蕎麥スベキ籠ナシ	三箱ニ蕎麥セリ	全	籠ナク蕎麥スル能ハズ	二石四斗ヲ三箱ニ蕎麥ス	唐芋ヲ撒キ俵受網ヲ試ム	大坪式篝火燈破損ス阿久根工場ニテ修繕ス					
				大坪式篝火燈破損ス			投網ニ際シ大坪式篝火燈破損ス									

秋季經餌料小鯉網試験

全日	全日	十一月一日	全日	全日	全日	三十日
曇	全	全	全	晴	全	曇
全	全	めつけ管根	全	全	全	きたか管根
全	全	全	全	全	全	后
全	全	全	全	全	全	二〇四北東和
全	全	全	全	全	全	二七〇北東緩
全	全	全	全	全	全	二九〇三五
全	全	全	全	全	全	一〇三
全	全	全	全	全	全	砂
全	全	全	全	全	全	小鯉
全	全	全	全	全	全	六〇
全	全	全	全	全	全	蓄養
全	全	全	全	全	全	大坪式釜火樽損傷ス
全	全	全	全	全	全	蓄養
全	全	全	全	全	全	本夜ヲ以テ試驗ヲ終了セリ

漁獲物合計 四十三石六斗四舛

内 十八石九斗五舛 蓄養

此代金八十二圓三十四圓也

二十四石六斗九舛 普通賣却

此代金八十二圓三十六錢也

合計金三百七十六圓三十六錢也

表中記事欄ニ示ス如ク活籠不足ナリシ爲折角ノ好餌料ヲ蓄養スル能ハズ而シテ經費ノ都合上俄カニ活籠ノ新調ヲ許サズ漁獲ノ半數ダニ貯養シ得スシテ之レヲ一斗三四十錢ノ安價ニ賣却スルノ止ムヲ得ザリシハ甚ダ遺憾トスル所ナリ然リト雖從業三十六日出漁二十四夜ニシテ四十三石六斗四升ヲ漁獲シ内十六石九斗五升ヲ蓄養シ之レヲ餌料トシテ鯉船



八艘ニ供給シ二百九十四圓ヲ得二十四石六斗九升ハ死魚トシテ賣却シ代金八十二圓餘ヲ得相當ノ漁獲タルナリ若シ夫レ活籠充分ニシテ漁獲セル鱈ヲ悉ク蓄養シ得タリシナバ其收益實ニ大ナルモノアリシヤ必セリ茲ニ於テカ十一月一日本試験ヲ結了シ引揚ゲントスルニ際シ試験地沙瀉ノ漁業者引續キ本網ノ貸與ヲ出願シタリシモ漁期既ニ後レタルナリテ明年度ヲ期シ之レヲ思止メシム蓋シ當業者ニ於テ該事業ヲ經營シ經費其他ノ融通自由ナルニ於テハ其收益既ニ疑フベカラザルナリ

尙又如何ナル漁具ニアリテモ種々ノ場合ニ之レヲ利用シ以テ其收益ヲ全フセサルベカラズ本場風ニ本網ノ良好ヲ確カムルヤ先年來大ニ之レガ應用ノ途ヲ講シ本年度ニ於テモ勉メテ之レヲ行ヒタリ即チ普通焚寄漁ノ外朝まづめ及ビ夕まづめ夜焚ヲナスノ前後棒受網ノ方法ヲ試ミ且ツ月明夜焚不能ノ時又之レヲ行フベク或ハ日中漁群ヲ認メナバ縛網ノ方法ニ則リ之レヲ捕獲スルコトヲモ得ベク漁夫ノ漸ク熟達スルニ及ンデハ本網應用ノ途甚ダ廣キヲ知レリ本年試験中沖合往々潮流早キニ失シ若シクハ風波強ク使網困難ナル際ノ如キ徒ラニ歸港スルコトヲナサズ沙瀉岬ノ南若シクハ北沿岸山陰ニ於テ鱈鱈等ノ捕獲ヲナセリ其方法先ツ火船ヲシテ之レ等魚類ノ纏綿セル礁上ニ於テ焚火セシメ魚集マラバ徐徐ニ罾ヲ櫓ギ使網ニ差シ支ヘナキ所マデ誘致シ以テ投網捕網シタリ鱈ノ如キハ火ニ付クコト早ク且ツ容易ニ離散スルコトナキガ故ニ此方法甚ダ良結果ナリキ

石油篝火燈ニ就テハ春季使用ノ際詳記シタルヲ以テ別ニ之レヲ記スル要ナシ唯左ニ石油消費高ノミヲ表示セン漁夫漸ク之レガ使用ニ馴ル、ニ從ヒ集魚ノ模様ト魚類ノ習性トニヨリ光力ヲ加減シ又ハ使網後直ニ消火若シクハ減火スル等大ニ石油ノ空費ヲ節減スルコトヲ得ベシ

石油篝火燈用油量試驗表

月 日	大坪		川原		備 考
	點火時間	用油式量	點火時間	用油式量	
九月二十七日	二、二〇	九、五	二、二〇	七、〇	
九月二十八日	二、四五	九、〇	二、四五	九、〇	
九月二十九日	四、一五	一、三〇	四、三五	一、三〇	
九月三十日	三、三五	一、一五	三、三五	一、〇〇	
十月二日	五、三〇	一、九五	六、〇〇	二、〇〇	
十月三日	七、四五	二、二五	七、四五	二、〇〇	
十月四日	八、五〇	二、六〇	八、五〇	一、九五	
十月六日	四、〇〇	一、二〇	五、二〇	一、二五	
十月八日	三、二〇	〇、〇〇	六、一〇	一、四〇	
十月十日	七、五五	二、〇〇	四、三〇	一、〇〇	
十月十一日	二、二〇	一、八〇	七、五五	一、三〇	
十月十二日	八、一五	二、一〇	三、四〇	九、〇〇	
十月十三日	五、〇〇	一、七〇	六、一五	九、〇〇	
十月十四日	四、三〇	一、四〇	六、〇〇	一、八〇	
十月十五日	二、二五	一、七〇	三、二〇	〇、九〇	
十月十六日	三、一五	〇、〇〇	四、三〇	〇、〇〇	
十月十七日	二、四五	〇、〇〇	三、一五	七、〇〇	
十月十八日	二、四五	九、〇〇	三、四五	六、〇〇	

均用油量	十一月一日	全月卅一日	全月三十日	全月二十九日	全月二十八日	全月二十七日	全月二十六日	全月二十五日
合 計	一 二 四、四五	八、三〇	八、〇〇	八、五〇	八、四〇	三、五〇	三、〇〇	三、〇〇
一時間	二 三 五、八、〇	二 一、〇	二 〇、〇	二 二、〇	一 〇、〇	八、〇	五、〇	一 〇、〇
平均	一 三 八、三五	八、五〇	四、一五	八、一〇	八、四〇	五、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
量	二 升 五 合 三 勺	二 〇、〇	一 一、〇	二 二、〇	二 〇、〇	一 五、〇	七、〇	八、〇

總計 二百六十三時二十分間

石油 七石〇九升

### 秋季鯉餌料小鱈蓄養試驗

本試驗ハ常ニ前記小鱈網試驗ト關聯シ施行スル所ニシテ小鱈ノ捕獲ト相待テ收益ヲ全フシ得ベキナリ本年度ハ活籠總數僅カニ六個内使用ニ堪ヘザルモノ二個アリ始終活籠ノ不足ヲ感ジ適良ナル餌魚ヲ空シク食料トシテ賣却シ漁獲ノ半數ヲモ蓄養スル能ハザリシハ甚ダ遺憾ナリ古籠ニ一時的應急ノ修繕ヲ施シタル第八號籠ノ如キハ十月五日ノ暴風ニテ忽チ破損シ餌魚爲ニ悉ク脱出シ常ニ活籠ノ融通ニ苦心シ分離併合等餌魚蓄養上最モ忌ムベキ事ヲ屢々スルノ止ムヲ得ザリシ爲比較的多クノ斃魚ヲ出シ且ツ又籠ノ不足ハ一籠ノ蓄養量ニ往々多キニ失シ之レ亦餌魚ノ損傷ヲ招ケリ而シテ

以上ノ如キ活籠ノ逼迫ニ際シ更ニ活籠ノ融通ヲ困難ナラシメタルモノハ試驗地沙瀉ニ於ケル餌魚ノ供給ガ鱈漁業者間ニ知ラレ居ラザリシコト之レナリ故ニ先ツ之レヲ鱈漁業者ニ通知シ以テ其漁船ノ試驗地沖合ヲ過ギ午深ニ向ハントスルモノヲシテ此處ニ歸港セシメ之レヲ供給販賣シタリ斯ノ如クシテ蓄魚ハ既ニ能ク馴致スルモ尙活籠ヲ明ケ更ニ新ニ捕獲シタル鰹ヲ蓄養スル等ノ便ヲ欲ギ餌魚漸ク馴ル、ニ從ヒ籠ノ間隙等ヨリ脱出スルモノ愈々多キヲ見タリ第二十三號及ビ第二十四號ノ二個ノ如キモ蓄養十日ニ及ンデ鱈漁船尙來ラズ終ニ十一月十一日ノ暴風ノ爲活籠轉覆シ能ク馴レタル最良ノ餌料ヲシテ空シク流失逃逸セシメタルハ甚ダ可惜ナリ今本年度蓄養ノ狀況ヲ表示セバ

秋季鱈餌料蓄養日誌

酒籠番號	漁獲		數量	蓄港	鱈							賣却日期	賣却數量	供給人名	記事		
	月日	時刻			第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七					第八	第九
一	九月	其日	四〇	翌前										十月	二〇	坊泊會社	籠目ヨリ脱出シ且ツ漁腹時高浪ナリシ爲メ斃死多シ十月四日一號ニ併合ハ四月六日過半ヲ第一號ト共ニ賣却シ殘部十月七日六號ト共ニ賣却シ殘部ハ五號及四號ニ配分ス 第三日時化ノ爲メ負傷セルモノアリ
二	全	廿廿	九〇	全	一	〇	〇										
三	全	十月	二〇	全	三	〇								十月	十七	坊泊會社	
四	全	日	全	二〇	全	〇											
五	全	日	全	二〇	全	〇								十月	十七	坊泊會社	
六	全	三日	全	九〇	全	〇								十月	十七	坊泊會社	
七	全	日	全	二〇	全	〇								十月	十七	坊泊會社	
八	全	四日	全	二〇	全	〇								十月	十七	坊泊會社	
九	全	十日	前	三〇	前									十月	十八	枕崎會社	古籠ナリシ爲メ翌朝ノ時化ニテ破壊シ餌魚悉ク脱出ス ウルメ一斗ヲ混ズ翌朝悉ク斃死ス鱈鱈數尾混セリ 貯籠約一斗餘ヲズレテ貯籠十月十七日第九號ニ併合
一〇	全	十日	前	三〇	前									十月	十八	枕崎會社	



ランニハ僅カニ七八十圓タルベキ小鱈ヲ約三四倍ノ高價ニ賣拂フヲ得タリ鱈漁業者ニアリテモ遙ニ熊本縣牛深港ニ赴キ餌料ヲ購入スルニ比シ如何ニ優レルカヲ實驗シ其從業上大ナル幸福ヲ得タルヲ喜ベリ兩者ノ關係斯ノ如クナルヲ以テ若シモ年々試驗地沙瀉ニ於テ餌魚ノ供給アルコト鱈漁業者ノ間ニ知ラル、ニ至ラバ競フテ此處ニ之レヲ購入スベク以上ノ如キ本年度本場ノ遭遇シタルガ如キ艱難ト損失トヲ招クコトナク與ニ俱ニ其利益ヲ増進スルコトヲ得ベシ年々試驗ヲ重マルニ從ヒ該試驗用活籠ノ如キモ次第二其缺點ヲ發見シ大ニ改善ノ施スベキアルヲ知り取扱上ニモ種々經驗スル所アリ此等ノ事項ハ其都度毎年度報告書ニ記載シアリ本年度試驗中發見シタル所ハ次ノ如シ蓋シ斯ノ如クシテ次第ニ改善シ愈々完全ノ域ニ達スルヲ得ベケレバナリ

一、本場從來ノ活籠ハ未ダ形狀小ニ過キ八斗以上蓄養シ能ハザルコト

一、籠ノ目粗ニシテ魚馴ル、時ハ脱出スルモノ甚ダ多キコト

一、籠ノ調製未ダ不完全ニシテ稍々強キ風浪ニ際シ忽チ破損セラル、ヲ以テ更ニ四周ニ添竹ヲナシ堅牢ナラシムルノ必要ヲ認ム

一、運搬ニハ從來ノ大サノ籠ヲ用ヒ定繫蓄養用トシテ更ニ數層大ナルモノヲ用ユルヲ便ナリトス

一、蓄養時運搬時及ヒ活籠布設方并ニ扱方等ニ關シテハ試驗終了間際ニ至リ大ニ發明スル所アリタリ而シテ之レ純然タル技術上ノ事タルヲ以テ明年度實地試行ノ後之レヲ報告セン要ハ蓄魚ノ損傷ヲ避ケ之レヲ驚懼セシメザルニアリ

## 鱈延繩貸與試驗

本縣海洋鱸ノ來淤饒多ナルハ當業者ノ周知目撃スル所ナルニ拘ハラズ舊慣弊風ノ餘波ハ他漁業ニ防害アルモノト誤信  
 シ斯業ヲ營ムモノ尠シ故ニ本場ハ有利有望ナル斯業普及ノ目的ヲ以テ年々之レガ漁具ノ貸與ヲナシ以テ起業ヲ促セリ  
 本年度ニ在リテハ能毛郡上屋久村宮浦渡邊嘉納吉松田孫吉全郡北種子村西ノ表磯川太吉及ビ出水郡阿久根村磯畑十太  
 郎ノ四名ニ各一組ツ、テ貸與シ試驗セリ其内松田孫吉ノ出漁日誌ヲ左ニ掲ク他ノ三名ハ尙出漁中ニシテ僅カ兩三回ノ  
 報告ニ接シタルノミナルヲ以テ明年度ヲ期シ之レヲ掲グベシ

出 漁 日 誌

松 田 孫 吉

八月十九日	八月廿七日	八月廿九日	十一月八日	十一月十五日	十二月五日	十二月七日	十二月廿八日
晴	曇	晴	全	全	全	晴	晴
東	西	東	西	東	北	西	西
宮浦沖	全	全	全	全	全	全	宮浦沖
七〇	全	全	全	全	五〇	八〇	八〇
トシカイ	トシカイ	トシカイ	フカ	フカ	フカ	フカ	フカ
一	一	一	一	一	一	一	一
三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	五、五〇〇	一、〇〇〇	二〇、〇〇〇
十二月十五日	十二月廿七日	十二月廿九日	十一月九日	十一月十四日	十二月五日	十二月七日	十二月廿八日
晴	全	全	全	全	雨	晴	全
西	全	全	全	全	南	西	北
宮浦沖	全	全	全	全	全	全	全
八〇	全	七〇	一〇〇	八〇	一〇〇	全	全
フカ	マダラ	メイ	フカ	ツマン	ツマン	ツマエ	子コザメ
五	一	一	一	一	一	一	一
二〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、五〇〇	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、五〇〇	四、〇〇〇

## 鰯卷網設計

西加世田村ハ本場所在地タルニ拘ラズ漁業ノ發展進歩ニツキテハ燈臺下閘ノ觀ナキニ非ズ年々近海鰯ノ游來多キモ適當ノ漁獲具ナク群來游去ニ任セタルノ有様ナリ村長西大海氏大イニ之レヲ遺憾トシ當業者ヲ諭シ有志ニ協力民業トシテ之レガ漁獲試驗ヲ施行スルコトトシ鰯捕獲具ノ設計ヲ本場ニ依頼セリ即チ左記卷網ヲ造リ之レヲ使用セシム然ルニ本場々員ハ豫定ノ試驗事業ヲ控エ爲ニ終始實地指導ニ從業スル能ハザリシヲ以テ使網ノ方法宜シキヲ得ス剩サヘ例年ニ比シ鰯ノ來游少カリシ結果充分ノ捕獲ヲナス能ハザリシト雖漁夫ノ漸ク本技ニ熟達シ熱心之レニ從事スルニ於テハ漁獲ノ大決シテ疑ヲ容レズ今該網構造并ニ使用法ノ大略ヲ示ス

網ハ帶狀ヲナシ其上縁ニ笠網ヲ附シテ二重浮子トナシ之レニ括網ヲ貫キタリ其狀恰カモ揚線網ノ環ニ於ケルガ如ク此括網ヲ締メ以テ浮子越ヲナサントスル鰯ヲ此笠網ニテ防ギ沈子ハ投網ノ沈子ト同様蛭形ニシテ網裾ノ内側ニ吊リ以テ袋狀トナシ沈子方ヨリ脱出セントスルモノヲ此袋内ニ罹ラシムルノ趣向ナリ

網ノ全長浮子方三百五十尋(三割ノ縮結)波子方四百尋(縮結二割)ニシテ網幅九尋トス

身網 綿絲十二本合二寸目(六節)二百掛二十五尋切縱縫二十反

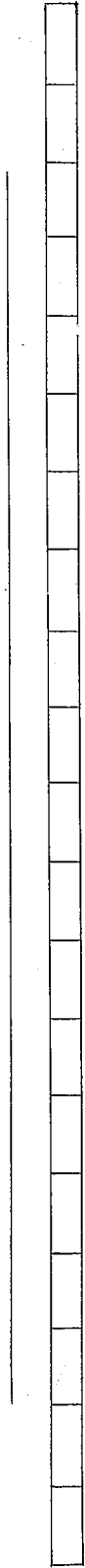
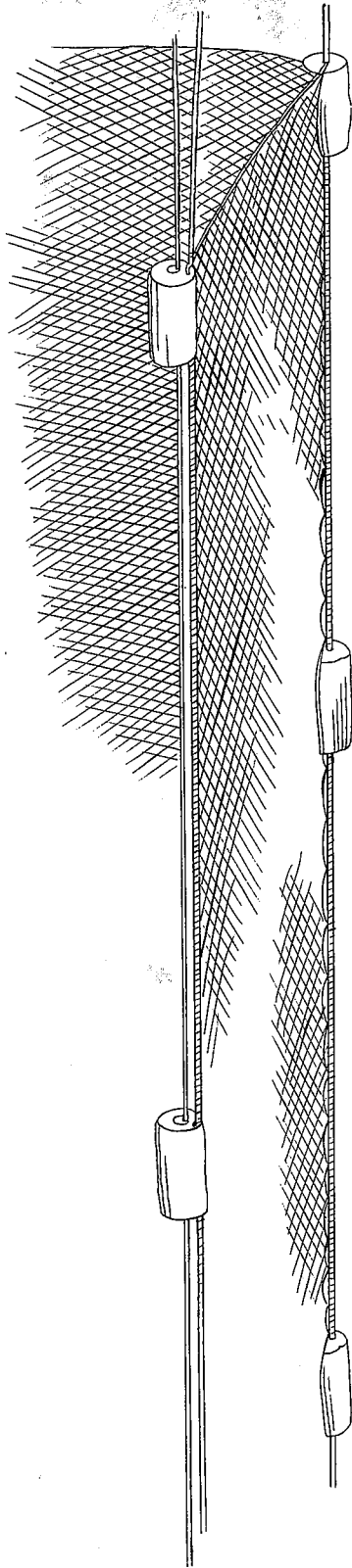
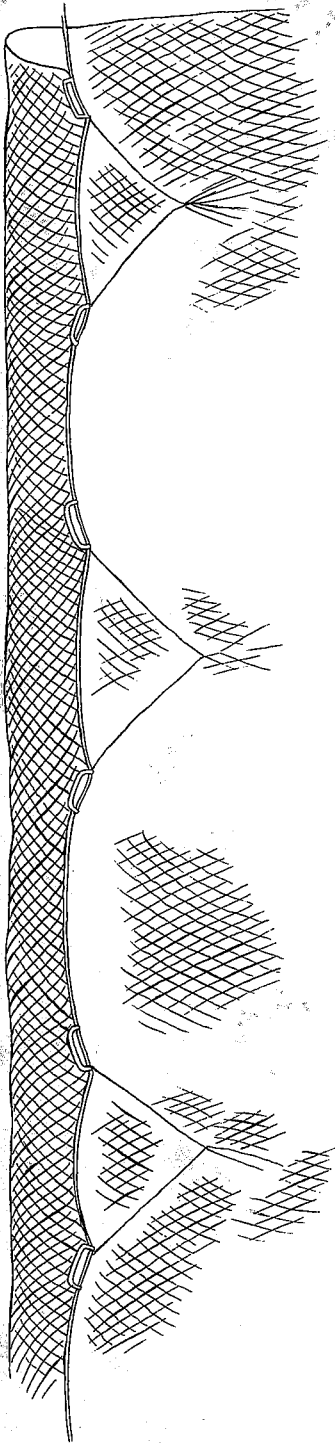
笠網 綿絲十二本合二寸六分目(五節)二十五掛二十五尋切全上

縁網 麻二子二寸六分目

沈子方吊袋八寸ツ、ヲ折返ス

浮子 桐製丸形長四寸經二寸五分ノモノ浮子綱一尺六寸毎ニ一個ツ、ヲ結付ク





二重浮子 同上中央ニ穴ヲ穿テ括綱ヲ通ス縁綱二尺五寸毎ニ一個ヲ附ス浮子總計六百個

沈子 鉛製蛭形重量二十匁沈子繩八寸毎ニ一個

浮子綱 棕梠徑三分三百七十尋

縁綱 (二重浮子) 麻徑一分八厘三百六十五尋

括綱 マニラ徑二分五厘三百八十尋

沈子綱 麻徑二分五厘四百十五尋

新調費一切金六百八十圓八十錢五厘

内譯

金五百九十六圓五十三錢三厘 網綱其他材料代

金八十四圓二十七錢二厘 人夫賃

使用法 網船二艘ニハ必ず各十一人以上ツ、乗込ミ綱ヲ分載ス手船四艘乃至八艘各四人乗込ミ指揮者ハ之レニ乗ルヲ便トス手船ハ輕快ナル小舟ヲ可トシ出來得ル限り船數ヲ増スベシ蓋シ投網ノ際ハ網船ノ前方ニ一二隻ヲ派シ魚群ノ圍繞ヲ援ケ或ハ網ノ纏絡ヲ整ヘ笠網部ヲ開展セシメ括綱ノ締括ヲ助ケ又常ニ網ノ周圍ニアリテ縮ノ飛越スルヲ防ガザルベカサル等手船ノ任務甚ダ多クシテ手船ノ補佐完カラザレバ敏捷ナル縮ノ捕獲到底望ムベカサルヲ以テナリ斯クシテ魚群ヲ認ムレバ此レヲ圓形ニ圍繞シ兩船均シク二重浮子ヲ貫メケル括綱ヲ曳キ締メ浮子方ヲ狹メテ魚ノ飛逸ヲ防ギ而シテ後沿岸若シクハ船内(此場合ニハ錨ヲ投入スベシ)ニ於テ徐々ニ浮子綱ヲ曳ク時ハ浮子方モ全時ニ曳寄セラレベシ投網ノ際ハ魚ノ游行極メテ迅速ナルヲ以テ專ラ之レニ注意シ其處置トシテ必要アレバ船舷又ハ水面ヲ叩キ魚ノ飛